

北星学園大学社会福祉学部

「社会福祉夏季セミナー」
半世紀の歩み

03p	社会福祉夏季セミナーの休止符にあたって	社会福祉学部長	今川 民雄
04p	「社会福祉夏季セミナー」を始めた頃	北星学園大学名誉教授	永田 勝彦
05p	社会福祉セミナー、その初心	北星学園大学名誉教授	忍 博次
06p	「社会福祉夏季セミナー」雑感	北星学園大学名誉教授	松井 二郎
08p	1968年(1)		
09p	1969年(2)		
10p	1970年(3)		
11p	1971年(4)「職業としての社会福祉」		
12p	1972年(5)「社会福祉方法論の反省」		
13p	1973年(6)「社会福祉の専門職化」		
14p	1974年(7)「社会福祉の最低基準をめぐる諸問題」		
15p	1975年(8)「社会福祉における人系思想の確立をめざして」		
16p	1976年(9)「ソーシャル・ワーク実践の共通基盤を求めて」		
17p	1977年(10)「地域福祉の今日的課題」		
18p	1978年(11)「新しいソーシャル・ワーカー像を求めて」		
19p	1979年(12)「今日の福祉意識を考える」		
20p	1980年(13)「障害とリハビリテーション」		
21p	1981年(14)「福祉と人権」		
22p	1982年(15)「福祉と人間観」		
23p	1983年(16)「家族変動と福祉の課題」		
24p	1984年(17)「地域福祉資源のネットワーク形成」		
25p	1985年(18)「社会福祉施設のノーマライゼーションをめざして」		
26p	1986年(19)「転換期の社会福祉」		
27p	1987年(20)「社会福祉の最近の動向と資格制度」		
28p	1988年(21)「社会福祉における評価」		
29p	1989年(22)「在宅福祉サービスの現状と課題」		
30p	1990年(23)「在宅ケアの可能性と限界」		
31p	1991年(24)「痴呆・ねたきり老人のインフォーマル(親族、近隣、友人)ケアについて」		
32p	1992年(25)「福祉供給の多様化と問題点」		
33p	1993年(26)「地域福祉と地方自治」		
34p	1994年(27)「在宅福祉の時代における福祉施設の役割」		
35p	1995年(28)「社会福祉における価値の問題」		
36p	1996年(29)「公的介護保険を考える」		
37p	1997年(30)「『介護保険法』の仕組みと実践現場」		
38p	1998年(31)「子育てとその社会的支援のあり方 - 日本とカナダの比較を通して - 」		
39p	1999年(32)「新しい障害概念を巡って」		
40p	2000年(33)「社会福祉基礎構造改革の課題と方向 - 改革の背景・市場原理の導入・社会福祉事業法等の改正を巡って - 」		
41p	2001年(34)「北の大地から施行1年の介護保険を検証する」		
42p	2002年(35)「社会福祉の新潮流を読む - 社会における「排除と包摂」及びセイフティネット - 」		
43p	2003年(36)「21世紀地域福祉の課題と展望 - 地域社会における新たな公共の創造を目指して - 」		
44p	2004年(37)「子供虐待とその対応のあり方」		
45p	2005年(38)「社会福祉とジェンダー」		
46p	2006年(39)「社会福祉はどこにいるか・どこに行くか」		
47p	2007年(40)「北海道における格差社会と社会福祉」		
48p	2008年(41)「貧困・低所得問題への支援～格差社会に何が必要か？」		
49p	2009年(42)「ソーシャルワーク実践の到達点と新たな可能性」		
50p	2010年(43)「現代の我が国における生活保障のあり方とその課題」		

クリックで
各ページへ
ジャンプ

社会福祉夏季セミナーの休止符にあたって

社会福祉学部長 今 川 民 雄

北星学園大学の社会福祉夏季セミナーは、1968年に第1回が開催されて以来昨年まで43回を数えました。およそ半世紀近くにわたって、北海道の社会福祉領域で仕事をされている方々の道しるべでもあり、情報源でもあり、さらには交流の場としても大いなる働きを持ってきたと自負しております。

とはいえ、時代の変化を反映して、社会福祉関係の情報源も、また研修機会も拡大し多様化してきております。そのことの結果として、本学主催の夏季セミナーへの参加者数がここ数年激減傾向にあり、北海道の社会福祉領域における人材を供給してきた大学として、本学卒業生を含めた社会福祉現場に働く方々への、集中的研修機会の提供としての夏期セミナーはその役目を果たし終えたと判断し、昨年度限りで幕を閉じることといたしました。

そこで、この間の夏季セミナーの歴史を記録として残すこととし、1962年に文学部社会福祉学科が開設され1968年に第1回の夏季セミナー開催に至ることとなった当時をよく知っておられる諸先生にご寄稿もいただきました。

本学は2012年に開学50年周年を迎えます。この間日本の社会福祉を巡る情勢は大きく変化してまいりました。社会福祉の現場は、大きな社会資源となりかつ多様に広がってきております。そうした中で北星学園大学の社会福祉学部の多くの卒業生が、北海道の全域にわたって社会福祉現場で活躍していることは実に心強いことと思いつつ、それだけ多くの方々に支えられて仕事が出来ていることに大変感謝しております。また、本セミナーを開催するにあたりましては毎年、各関係機関の方々にご協力をいただきましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。

夏季セミナーは一旦終了いたしますが、社会福祉学部は、北海道に社会福祉をになう人材を育てるとともに、社会福祉領域におけるオピニオン・リーダーとしてあるいは現場の皆様の要望にきめ細かく応えてゆく責任があると考えており、今後は、新たな社会福祉学部の社会貢献事業を実施いたします。これは、道内各地域における地方公共団体を始めとして、多くの社会福祉関連の事業や活動を行っている諸団体の方々に対して、教員が自らの専門領域を活かして、後援やグループワークなどの研修を支援させていただこうという試みでございます。

今後とも皆様の変わらぬご協力、ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

「社会福祉夏季セミナー」を始めた頃

永 田 勝 彦

(北星学園大学名誉教授)

大学が開設された 1962 年当時から卒業生が 2～3 期出始めた頃の「社会福祉」に対する一般市民の理解は、伝統的に行われて来た「社会事業」の域を出ず、福祉施設の現場でも、専門性の観点からすれば極めて不十分な状況にあった。大学で 4 年間に学ぶ知識・技術の深さに限界があるのは当然だが、それでも学卒を受け入れる福祉現場は限られていたし、たとえ就職しても、現場の期待が大き過ぎてそれに応える新人側のキャリアーが不足しているか、でなければ、伝統的な価値観やいわゆる経験主義から抜けきれない現場の雰囲気を押されて、卒業生が学んで来た考え方と職場の現実とのギャップに悩むこととなっていた。

そのような「社会福祉」を取り巻く状況の中で、福祉のサービス水準を向上させる必要性を痛感していた頃、卒業生からの要望もあり、現場職員の再教育に学科として関わる義務があるのではと考え始めていった。そればかりではなく、福祉現場の実態や抱える生の課題を我々教員も学び、施設間・ワーカー間のネットワークを作る機会を提供してはとも考えていた。加えて、社会福祉展開の基盤となる一般市民の福祉関心に応えるばかりではなく、社会福祉とは何か、社会福祉の抱える課題を啓蒙する役割を福祉学科が担っては、といった意図を持って、1968 年 8 月「北星学園大学社会福祉夏季セミナー」は始められたように記憶している。そのような雰囲気が出始めたのも、学科のカリキュラムの検討や学生対応が一応の落ち着きを見せ始めたことと関係していたように思われる。

したがって、その展開も講義だけではなく、講義やシンポジウムに関する分科会のテーマを設定して予め受講者にクラスを選んでもらい、午後をセミナーに当てるようにしていた。午前 10 時～午後 4 時半まで、連続 3 日間。企画や実施は全て学科会議で決定していたし、福祉学科教員は当然のこととして全員が何らかの役割を持ち、参加していた。開学当時は、現在ほどに大学が大衆化されていなかったもので、北星らしく新しい大学像を求める気運が強く、今から考えると、随分、先進的な試みがなされてきた（入試に小論文の必修・社会人入試・教養演習の必修・学長選挙に大学構成員の参加・経理公開・全学集会・国際交流、等々）。合議に基づいて主体的に大学の自治を意識した展開をしていたように思われる。その中で、大学が社会に貢献する努力の現われとして「セミナー」が始まったし、その後の全学が関わる「北星学園大学開放講座」が札幌市との共催で行われるようになっていった。

社会福祉セミナー、その初心

忍 博 次

(北星学園大学名誉教授)

福祉セミナーの出発年は1968年である。1968年という年は、全国に拡大した大学紛争がピークを迎えた。北星学園大学も少し遅れてその波をかぶったが、それよりも早く新設大学の主体的意思として、変動する社会を見据えながら、小粒でもきらりと光る「大学像」を模索していた。特に開学直後の火災、プレハブでの講義を乗り越えて教員も学生も良い大学へ思いは深かった。しかし新しい学問体系と専門教育カリキュラムを模索する社会福祉学科のわれわれはどんな知識体系を整え、専門職教育を行うべきか悩みがあった。

池田内閣は資本主義社会の発展と所得倍増を約束した。学生運動は産業界の要請と国家権力に対し、大学の自治と研究・教育の内実を問うていたように思うのである。社会福祉学に関して言えば、学会で政策論研究者と援助技術論研究者との乖離、もっと狭い意味ではマルクス経済学に立つ福祉政策論とソーシャルワーク論との論争が目を惹いた。社会福祉本質論争は別としても、近代的な福祉理論と共に現実に営まれている社会福祉をどうカリキュラムに反映し、どんな専門性を追求するのか、大学の在り方と専門職教育はどうあったらよいのかなど、当時はコーヒブレイクのときでもそんな会話が日常であった。

社会福祉セミナーの発足にはそんな時代背景があったように思われる。永田学部長から大学の社会貢献としてセミナー開催の是非を発議されたとき学科の姿勢はその重荷にもかかわらず研究の解放に前向きであった。その頃社会貢献といえば講義の聴講、公開講座などはあっても、大学が主体的に事業を計画し、社会福祉の専門家や地域の人々に働きかけ、大学の知的営みに参加を求めるような考えは少なかった。思い起こせば、永田先生の発案は単なる大学の知識提供にとどまらず、われわれの研究・教育を地域の福祉従事者に知ってもらうこと、そしてわれわれにとっては、わが国の福祉の現実を苦闘する実践家から学ぶ場になること、そしてそのことはやがて福祉のリーダーになる学生の教育に示唆を与えてくれるであろうことなどを意図されていたように思う。その考えを実りあるものにするために、福祉学科の総意として、とにかくこの種のセミナーが講義中心になりがちなのを、講義は問題提起、それを踏まえた小グループの討論に時間を割いた。わたくしの個人的経験を述べれば、小グループの討論は現場を潜り抜けた問題に研究仮説を求めるようになったし、ひざ突き合わせた意見の交流と信頼は大学教育への理解を深め、実習の受け入れや就職など学生の利益にも少なからず影響を与えていたように思う。

開学から50年、福祉制度は拡大し、専門職制度も確立した。しかし拡大する福祉需要の増大と福祉思想の変化は税と社会保障の一体改革や福祉諸制度の改革にわれわれを直面せしめている。福祉セミナーは一旦中止となったというが、時代に即した知の形成を大学に期待していることに変わりはない。とくに卒業生の多くは福祉の世界の中核を占めるようになった。彼らの声は混迷する現実の方向付けに新しい社会貢献を切に望んでいる。

「社会福祉夏季セミナー」雑感

松 井 二 郎

(北星学園大学名誉教授)

「社会福祉夏季セミナー」が、2010年の第43回でもって幕をとじることになった。

「社会福祉夏季セミナー」に関わってきた者として、感慨深い。まず、社会福祉夏季セミナーが企画されるに至った背景・経緯を振り返ってみたい。

北星学園大学文学部社会福祉学科は、1962年（昭和37年）に認可され、南5条にあった校舎で授業が始まったが、翌年に校舎が被災焼失し、1963年に現在の厚別区大谷地に移転した。大谷地の校舎は、仮のプレハブでつくられたものであり、振り返ると、大変、困難な状況のなかでの出発であった。冬になると、教室の中に吹雪が入るなど、研究・教育環境としては大変、厳しいものであった。

このような教育環境の中で、1965年（昭和40年）に編入学生10名が初めて卒業した。1期生の多くが社会福祉の分野に就職したように思う。

「第1回社会福祉夏季セミナー」が開催された1968（昭和43）年当時、すでに文学部社会福祉学科の卒業生は約190名となり、福祉の現場に就職した卒業生も多かった。しかしながら当時の福祉現場の労働条件は、まだまだ整備されておらず、また福祉現場で働く多くの従事者を支援する研修の機会は、今と違ってほとんどなかったといっ

てよい。

社会福祉学科では、大学開設後、新しい大学のあり方について検討を重ね、大学と地域社会との連携、大学の社会貢献について模索してきた。多くの卒業生が福祉分野に就職し、現場の厳しさに取り組んでいる様子を知り、社会福祉学科として何かの形で支援できないかが、話題になった。当時、社会福祉学科の専任教授であった城戸幡太郎先生は、大学と地域社会との連携、大学の社会貢献の大切なことを力説され、「社会福祉夏季セミナー」の構想が具体化していった。

「社会福祉夏季セミナー」は、講義とシンポジウム、グループに分かれてのセミナーの三つの柱によって構成され（シンポジウムは第4回から）、その後もこの形を一貫して維持してきた。なぜこのような形をとってきたか。

福祉の実践は、従事者が所属する職場のなかで行われるのであるが、ともすると、職場の業務に追われ、従事者の関心が日々の仕事に向けられがちになる。その結果、分野・領域を異にする他の従事者との交流や共有する問題への関心が希薄になり、横のつながりを欠いた、いわゆる「たこつぼ化現象」が生まれやすい。セミナーでの講義、シンポジウムは、それぞれの実践領域を横断する社会福祉の共通問題を取り上げるとともに、セミナーでは、共通問題と関連づけながら、各領域で実践課題について、意見を交換し、問題意識を共有することを目的としていた。

以上のような経緯で生まれた「社会福祉夏季セミナー」は、スタートしてから43年

が経過した。一度も休むことなく、これまで継続することができたのは、福祉従事者、市民の関心やニーズになに程か応えてきたことの結果であろう。

この度、第43回で夏季セミナーが終ることに至った理由は、推測するに、夏季セミナー参加者の減少であろう。参加者の減少傾向は、以前から見られた。その背景として考えられるのは、道社協が主催する各種の研修プログラムや社会福祉諸分野の職能団体が主催する研修会や研究会等による研修や社会福祉士会の研修、ケアマネジャーの養成研修などが増加し、社会福祉夏季セミナーと競合するようになったことがあげられよう。また夏季セミナーに参加するためには、数日間、職場を離れざるを得ず、多忙な職場環境では休みをとることがだんだんと難しくなってきたことも参加者の減少につながっているかもしれない。さらには、現場で必要とされる知識・技術と夏季セミナーで得られる知識との間にズレがあったのかもしれない。

振り返ると、夏季セミナーに参加する教員にとっても、福祉現場の生の声や従事者の問題意識に触れることができる、またとない貴重な機会でもあった。夏季セミナーでの参加者との交流から学んだ多くの事柄は、研究や授業にとって良き刺激となった。その意味でも、現場の従事者との貴重な交流の機会であった夏季セミナーが終るのは、大変、残念に思う。

ぜひ、「社会福祉夏季セミナー」に代わる新たなプログラムが取り組まれることを期待したい。

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1968年 (1)		テーマ「」 特に社会福祉施設における諸問題を中心に、セミナー形式を取り入れて、討議を深めていきたい。
	8月19日	9:30～11:00 講義「社会福祉と教育」 北星学園大学教授 城戸幡太郎 11:10～12:00、13:30～16:00 セミナー Ⅰ.「施設におけるケースワークとグループ・ワークをめぐって」 北星学園大学助教授 忍博次 同 太田義弘 Ⅱ.「施設における問題児の発見をめぐって」 北海道教育大学助教授・北星学園大学講師 宮本実 Ⅲ.「クライアントの人格、行動の測定をめぐって」 北星学園大学教授 永田勝彦 16:10～16:40 全体総括 各セミナーによる総括報告
	8月20日	9:30～11:00 講義「社会福祉と児童観」 遠軽家庭学校長・北星学園大学講師 留岡清男 11:10～12:00、13:30～16:00 セミナー Ⅰ.「施設におけるクライアントの社会保障をめぐって」 北星学園大学専任講師 白沢久一 Ⅱ.「児童の発達と保育をめぐって」 北星学園大学助教授 城戸幡太郎 Ⅲ.「心身障害児(者)のリハビリテーションをめぐって」 北星学園大学助教授 忍博次 16:10～16:40 全体総括 各セミナーによる総括報告
	8月21日	9:30～11:00 講義「北海道の社会事業の歴史」 北星学園大学教授 三吉明 11:10～12:00、13:30～16:00 セミナー Ⅰ.「社会福祉施設の従業者をめぐって」 北星学園大学教授 永田勝彦 同 専任講師 白沢久一 Ⅱ.「社会福祉施設と地域社会をめぐって」 北星学園大学助教授 太田義弘 Ⅲ.「社会福祉施設の管理運営をめぐって」 北星学園大学教授 助川貞利 同 専任講師 松井二郎 16:10～16:40 全体総括 各セミナーによる総括報告

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1969年 (2)		テーマ「」 特に「現業」と「研究」の「共通の広場」をもとめて、セミナー形式を参加者中心に取り入れてて討議を深めていきたい。
	8月7日	9:30～11:00 講義「日本人の社会的性格-偏見をめぐって-」 北星学園大学教授 忍博次 11:10～12:00、13:30～16:00 セミナー Ⅰ.「施設におけるケースワークをめぐって」 北星学園大学助教授 太田義弘 Ⅱ.「施設における問題児の発見をめぐって」 北海道教育大学助教授・北星学園大学講師 宮本実 Ⅲ.「社会福祉施設の管理運営をめぐって」 北星学園大学教授 助川貞利 16:10～16:40 全体総括 各セミナーによる総括報告
	8月8日	9:30～11:00 講義「文化と異常行動」 道立精神衛生センター指導部長・北星学園大学講師 黒田知篤 11:10～12:00、13:30～16:00 セミナー Ⅰ.「児童の発達と保育をめぐって」 北星学園大学教授 城戸幡太郎 Ⅱ.「心身障害児(者)のリハビリテーションをめぐって」 北星学園大学教授 忍博次 Ⅲ.「老人問題と老人福祉をめぐって」 北星学園大学教授 三吉明 16:10～16:40 全体総括 各セミナーによる総括報告
	8月9日	9:30～11:00 講義「専門職としての社会事業従事者」 北星学園大学教授 永田勝彦 11:10～12:00、13:30～16:00 セミナー Ⅰ.「社会事業従事者の専門性をめぐって」 北星学園大学教授 永田勝彦 Ⅱ.「社会事業従事者の労働条件をめぐって」 北星学園大学専任講師 白沢久一 Ⅲ.「社会福祉における運動とその組織化をめぐって」 北星学園大学専任講師 松井二郎 16:10～16:40 全体総括 各セミナーによる総括報告

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1970年 (3)		テーマ「」 今日、我が国の社会福祉が直面している諸問題に重点をおき、セミナー形式を取り入れて討議を深めていきたい。
	8月6日	10:00～11:30 講義「社会福祉の研究方法」 北星学園大学 城戸幡太郎 11:40～12:30 映画「施設と地域とボランティアと」 13:30～16:00 セミナー Ⅰ.「クライアントの社会診断をめぐって」 北星学園大学 忍博次 Ⅱ.「ケース記録の取り方とその活用をめぐって」 北星学園大学 太田義弘 Ⅲ.「社会福祉の効果測定をめぐって」 北星学園大学 城戸幡太郎 同 永田勝彦 16:00～16:30 全体総括 各セミナーによる総括報告
	8月7日	10:00～12:30 講義「社会福祉の近代化とは何か」 北海道社会福祉協議会事務局長 岡武夫 北海道社会福祉専門指導員 古川和多留 札幌育児園指導員 山本文夫 北星学園大学 松井二郎 13:30～16:00 セミナー Ⅰ.「社会事業従事者の社会的責任をめぐって」 北星学園大学 永田勝彦 同 白沢久一 Ⅱ.「民間社会福祉事業の特質と限界をめぐって」 北海道社会福祉協議会 岡武夫 北星学園大学 松井二郎 Ⅲ.「社会福祉施設の財政と会計をめぐって」 北星学園大学 助川貞利 同 中川健蔵 16:00～16:30 全体総括 各セミナーによる総括報告
	8月8日	10:00～11:30 講義「貧困と社会福祉」 北星学園大学教授 永田勝彦 11:40～12:30 映画「この大地に」 13:30～16:00 Ⅰ.「社会福祉とボランティア活動をめぐって」 北星学園大学 太田義弘 札幌市青少年育成協会 板垣弥之助 Ⅱ.「社会変動に伴う地域・家族問題とその対策をめぐって」 北星学園大学 忍博次 北海道中央児童相談所 加藤光雄 Ⅲ.「社会変動に伴う福祉施設の機能の変化と役割をめぐって」 北星学園大学 三吉明 北海道社会福祉協議会 岡武夫 16:00～16:30 全体総括 各セミナーによる総括報告

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1971年 (4)		テーマ「職業としての社会福祉」 今日、我が国の社会福祉が直面している諸問題に重点をおき、セミナー形式を取り入れて討議を深めていきたい。
	8月10日	10:00～12:30 シンポジウム「社会福祉とは何か」 興正学園園長 秦正見 銀山学園園長 野村健 北海道社会福祉協議会 小泉教高 北星学園大学助教授 太田義弘 北星学園大学助教授 白沢久一(司会) 13:30～16:00 講義 テーマ「社会福祉とは何かをめぐって」 クラスⅠ 北星学園大学教授 助川貞利 同 忍博次 クラスⅡ 北星学園大学教授 三吉明 同 助教授 太田義弘
	8月11日	10:00～12:30 シンポジウム「社会福祉と隣接職業」 道立精神衛生センター主事 尾谷正孝 天使病院精神科院長 村田忠良 北海道中央児童相談所判定課長 菅谷克彦 北星学園大学教授 忍博次 北星学園大学助教授 太田義弘 13:30～16:00 講義 テーマ「社会福祉と隣接職業をめぐって」 クラスⅠ 北星学園大学教授 永田勝彦 同 助教授 白沢久一 クラスⅡ 北星学園大学教授 城戸幡太郎 同 助教授 松井二郎
	8月12日	10:30～12:30 講義「社会福祉と隣接諸科学」 北星学園大学教授 城戸幡太郎 13:30～16:00 総括と問題の整理 「職業としての社会福祉をめぐって」 北星学園大学教授 三吉明

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1972年 (5)		テーマ「社会福祉方法論の反省」 今日、我が国の社会福祉が直面している諸問題に重点をおき、セミナー形式を取り入れて討議を深めていきたい。
	8月2日	9:00～10:00 開講の挨拶、オリエンテーション 10:00～11:30 講義「ケースワークの論争点と発展の方向性」 北星学園大学助教授 太田義弘 11:30～12:00 質疑 12:30～13:30 映画 13:30～15:00 講義「施設管理の課題と方向」 北星学園大学助教授 松井二郎 15:00～16:00 質疑
	8月3日	9:30～12:30 セミナー I. 「児童福祉方法の反省と課題」 北星学園女子短期大学長 留岡清男 II. 「医療社会事業方法の反省と課題」 北星学園大学助教授 太田義弘 III. 「公的扶助方法の反省と課題」 北星学園大学助教授 白沢久一
	8月4日	9:30～12:30 シンポジウム「児童福祉の課題と展望-児童憲章の理念に照して-」 北星学園大学教授 三吉明(司会) 羊ヶ丘養護園副園長 松井健三 札幌市児童相談所判定係長 山貫義彦 矯正研修所札幌支所主任教官 松田功 北の星東札幌保育園主任保母 児玉愛子 札幌市手をつなぐ親の会会長 住友利春

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1973年 (6)		テーマ「社会福祉の専門職化」 今日、我が国の社会福祉が直面している諸問題に重点をおき、セミナー形式を取り入れて討議を深めていきたい。
	8月24日	10:00～10:30 開講の挨拶、オリエンテーション 10:30～12:00 講義「社会福祉施設の従事者について」 北海道家庭学校長 谷昌恒 13:00～14:30 講義「福祉施設職員の労働意識」 北星学園大学教授 永田勝彦 14:30～14:50 休憩 14:50～16:10 講義「社会福祉と偏見」 北星学園大学教授 忍博次
	8月25日	10:00～12:00 シンポジウム「社会福祉士法制定試案をめぐって」 司会 北星学園大学教授 三吉明 解説 北星学園大学助教授 太田義弘 発題 北星学園大学助教授 白沢久一 北星学園大学助教授 松井二郎 13:00～16:10 セミナー「社会福祉の専門職化をめぐって」 Ⅰ. 老人福祉 北星学園大学教授 三吉明 Ⅱ. 児童福祉 北星学園大学教授 永田勝彦 同 助教授 松井二郎 Ⅲ. 心身障害者福祉 北星学園大学教授 忍博次 Ⅳ. 医療福祉 北星学園大学助教授 太田義弘 Ⅴ. 公的扶助 北星学園大学助教授 白沢久一

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1974年 (7)		テーマ「社会福祉の最低基準をめぐる諸問題」 今日、我が国の社会福祉が直面している諸問題に重点をおき、セミナー形式を取り入れて討議を深めていきたい。
	8月26日	9:30～10:00 開講の挨拶、オリエンテーション 10:00～12:00 講義「社会福祉施設の最低基準をめぐる諸問題」 北星学園大学助教授 白沢久一 13:00～14:30 講義「社会福祉の最近の国際的動向」 日本社会事業大学教授 仲村優一 14:30～14:50 休憩 14:50～16:10 講義「社会福祉とナショナル・ミニマム」 弘前大学教授 関谷耕一
	8月27日	9:30～12:30 シンポジウム「社会福祉施設の最低基準めぐって」 司会 北星学園大学助教授 松井二郎 発題 鉄道弘済会札幌藻南園主任指導員 若林平三郎 北海道立太陽の園指導員 横井寿之 新十津川町立特別養護老人ホーム副園長 多田洋二 北海道民生部社会福祉課長 井馬煌一 13:30～16:10 セミナー「社会福祉施設最低基準の現状と今後の課題」 I. 老人福祉と最低基準 北星学園大学教授 三吉明 II. 児童福祉と最低基準 北星学園大学助教授 松井二郎 同 専任講師 久富善之 III. 心身障害者福祉と最低基準 北星学園大学教授 忍博次 同 太田義弘 IV. 処遇・労働条件と最低基準 北星学園大学教授 永田勝彦 同 助教授 白沢久一 16:10～16:30 総括

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1975年 (8)		テーマ「社会福祉における人系思想の確立をめざして」 今日、我が国の社会福祉が直面している諸問題に重点をおき、セミナー形式を取り入れて討議を深めていきたい。
	8月25日	9:30～10:00 開講の挨拶、オリエンテーション 10:00～12:00 講義「人間の尊厳について」 北星学園大学学長 秋田稔 13:00～14:30 講義「憲法上の人権の精神とその守り方」 北海道大学教授 深瀬忠一 14:30～14:50 休憩 14:50～16:10 講義「日本社会事業と人権」 北星学園大学教授 三吉明
	8月26日	9:30～12:30 シンポジウム「社会福祉施設と人権をめぐる」 司会 北星学園大学教授 永田勝彦 発題 銀山学園園長 野村健 特別養護老人ホーム神愛園指導員 山崎環子 北海道難病団体連絡協議会事務局長 伊藤健雄 北星学園大学助教授 松井二郎 13:30～16:10 セミナー「社会福祉施設の人権をめぐる現状と今後の課題」 Ⅰ. 老人福祉施設と人権 北星学園大学教授 三吉明 同 永田勝彦 Ⅱ. 児童福祉施設と人権 北星学園大学助教授 松井二郎 同 専任講師 久富善之 Ⅲ. 心身障害児(者)福祉施設と人権 北星学園大学教授 忍博次 Ⅳ. 処遇・労働条件と最低基準 北星学園大学教授 太田義弘 同 助教授 白沢久一

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1976年 (9)		テーマ「ソーシャル・ワーク実践の共通基盤を求めて」 今日、我が国の社会福祉が直面している諸問題に重点をおき、セミナー形式を取り入れて討議を深めていきたい。
	8月23日	9:30～10:00 開講の挨拶、オリエンテーション 10:00～12:00 講義「ソーシャル・ワーク理論の最近の動向」 北星学園大学 松井二郎 13:00～16:30 テーマ「各分野におけるソーシャル・ワーク実践の現状と課題」 コーディネーター 北星学園大学 忍博次 講義「医療におけるソーシャル・ワーク実践」 道立精神衛生センター 佐々木敏明 講義「心身障害児の治療実践」 市立札幌病院付属静療院児童部 川守田京子 講義「老人福祉施設におけるソーシャル・ワーク実践」 新十津川町立特別養護老人ホーム 米本秀仁
	8月24日	9:30～12:00 分散セミナー「ソーシャル・ワーク実践の共通基盤をめぐって」 前日の講義を踏まえて、共通テーマをそれぞれの立場から各分野を超えて交流・追求します。 13:00～17:00 分野別セミナー I. 医療におけるソーシャル・ワーク実践をめぐって 道立精神衛生センター 佐々木敏明 北星学園大学 白沢久一 II. 心身障害児の治療実践をめぐって 市立札幌病院付属静療院 川守田京子 北星学園大学 忍博次 III. 老人福祉施設におけるソーシャル・ワーク実践をめぐって 新十津川町特別養護老人ホーム 米本秀仁 北星学園大学 永田勝彦 IV. 地域住民活動をめぐって 北星学園大学 久富善之

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1977年 (10)		テーマ「地域福祉の今日的課題」 今日、我が国の社会福祉が直面している諸問題に重点をおき、セミナー形式を取り入れて討議を深めていきたい。
	8月22日	9:30～10:00 開講の挨拶、オリエンテーション 10:00～12:00 講義「地域と地域福祉」 北星学園大学 久富善之 13:00～16:30 講義「社会福祉協議会の理念と現実」 北海道社会福祉協議会 小泉教高 講義「アメリカにおけるコミュニティ・ワーク-最近の動向を中心に-」 北星学園大学 太田義弘
	8月23日	9:30～12:00 シンポジウム「地域における福祉の組織化をめざして」 司会 北星学園大学 白沢久一 老人福祉施設の立場から 江別市盲人養護老人ホーム恵明園 水田武夫 難病患者団体の立場から 北海道難病団体連絡協議会 藤沢紀夫 社会福祉協議会の立場から 北海道社会福祉協議会 高橋吉彦 ホーム・ヘルパーの立場から 岩見沢市ホーム・ヘルパー 芹沢喜美江 13:00～17:00 セミナー Ⅰ. 児童福祉と地域 北星学園大学 松井二郎 同 久富善之 Ⅱ. 老人福祉と地域 北星学園大学 三吉明 同 永田勝彦 Ⅲ. 障害者福祉と地域 北星学園大学 忍博次 Ⅳ. 医療福祉と地域 北星学園大学 太田義弘 同 白沢久一

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1978年 (11)		テーマ「新しいソーシャル・ワーカー像を求めて」 今日、我が国の社会福祉が直面している諸問題に重点をおき、セミナー形式を取り入れて討議を深めていきたい。
	8月21日	9:30～10:00 開講の挨拶、オリエンテーション 10:00～12:00 講義「社会福祉従事者の諸問題」 日本社会事業大学教授 鷺谷善教 13:00～15:00 講義「ソーシャル・ワーク実践の根底に問われる課題」 北海道家庭学校長 谷昌恒 15:00～17:00 セミナー Ⅰ. ソーシャル・ワーカーに求められる価値 北星学園大学教授 永田勝彦 同 太田義弘 Ⅱ. ソーシャル・ワーカーをとりまく職場の諸条件 北星学園大学教授 白沢久一 同 松井二郎 Ⅲ. ソーシャル・ワーカーの研修をめぐって 北星学園大学教授 三吉明 同 忍博次 Ⅳ. 対象者の求めるソーシャル・ワーカー像をめぐって 北星学園大学助教授 久富善之
	8月22日	9:30～11:30 講義「米国におけるソーシャル・ワーカーの現実とその教育」 北星学園大学教授 太田義弘 11:30～12:00 映画上映 13:00～16:30 セミナー Ⅰ. ソーシャル・ワーカーに求められる価値 北星学園大学教授 永田勝彦 同 太田義弘 Ⅱ. ソーシャル・ワーカーをとりまく職場の諸条件 北星学園大学教授 白沢久一 同 松井二郎 Ⅲ. ソーシャル・ワーカーの研修をめぐって 北星学園大学教授 三吉明 同 忍博次 Ⅳ. 対象者の求めるソーシャル・ワーカー像をめぐって 北星学園大学助教授 久富善之 16:30～17:00 各セミナー報告

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1979年 (12)		テーマ「今日の福祉意識を考える」 今日、我が国の社会福祉が直面している諸問題に重点をおき、シンポジウムとセミナー形式を取り入れて討議を深めていきたい。
	8月20日	9:30～10:00 開講の挨拶、オリエンテーション 10:00～11:30 講義「日本人の意識」 北海道クリスチャンセンター R. S. バーカー 12:30～14:30 講義「福祉意識の構造と課題」 北星学園大学 永田勝彦 14:30～15:00 映画上映 15:00～17:00 分散講義 A. “自立”について 北星学園大学 白沢久一 B. “偏見”について 北星学園大学 忍博次 C. “疎外”について 北星学園大学 久富善之
	8月21日	9:30～12:00 シンポジウム「今日の福祉意識を考える」 司会 北星学園大学 松井二郎 障害者の立場から 札幌聴力障害者協会 坂本秀男 施設従事者の立場から 道立福祉村指導員 奥村次雄 ボランティアの立場から 道青年ボランティア連盟 久保田泰伊 13:00～16:30 セミナー Ⅰ. 老人問題と福祉意識 北星学園大学 三吉明 Ⅱ. 貧困問題と福祉意識 北星学園大学 白沢久一 Ⅲ. 医療問題と福祉意識 北星学園大学 太田義弘 Ⅳ. 障害者問題と福祉意識 北星学園大学 忍博次 Ⅴ. 地域・ボランティアと福祉意識 北星学園大学 久富善之 16:30～17:00 各セミナー報告

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1980年 (13)		テーマ「障害とリハビリテーション」 今日、我が国の社会福祉が直面している諸問題に重点をおき、シンポジウムとセミナー形式を取り入れて討議を深めていきたい。
	8月18日	9:30～10:00 開講の挨拶、オリエンテーション 10:00～11:00 講義「障害者の社会参加-偏見の構造を中心に-」 北星学園大学 忍博次 11:00～12:00 講義「精神障害者の社会復帰」 道立衛生センターソーシャル・ワーカー 金田迪代 13:00～17:00 シンポジウム「障害者の社会的統合を阻むもの」 司会 北星学園大学 三吉明 教育の立場から 札幌市教育委員会 山貫義彦 障害者の立場から 自営業 徳井四郎 労働行政の立場から 北海道労働部 足立心一 施設の立場から 太陽の園 小林繁一
	8月19日	9:30～10:30 講義「高齢者とりハビリテーション」 慈啓会病院院長 浦沢喜一 10:30～11:30 講義「身体障害者の社会参加-授産施設の現場から-」 北海道リハビリ指導部長 西村秀夫 12:30～17:00 セミナー 北星学園大学 三吉明 北星学園大学 永田勝彦 北星学園大学 忍博次 北星学園大学 太田義弘 北星学園大学 白沢久一 北星学園大学 松井二郎

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1981年 (14)		テーマ「福祉と人権」 今日、我が国の社会福祉が直面している諸問題に重点をおき、シンポジウムとセミナー形式を取り入れて討議を深めていきたい。
	8月28日	10:00～10:30 開講の挨拶、オリエンテーション 10:30～12:00 講義「社会福祉事業法の諸問題」 北星学園大学 白沢久一 13:00～14:30 講義「障害児者の性の問題について」 永光学園園長 飯田一道 14:30～17:00 講義「権利としての社会保障」 金沢大学教授 小川政亮
	8月29日	9:30～11:30 シンポジウム「福祉施設と人権-性とプライバシー-」 1. 美深育成園園長 木下茂幸 2. 剣淵西原学園指導課長 横井寿之 3. 北湯沢リハビリセンター更生部指導課長事務取扱 森口久美子 4. 札幌慈啓会養護老人ホーム福祉係長 山口由紀子 12:30～16:00 セミナー 第1分科会 児童福祉施設 北星学園大学 松井二郎 北星学園大学 杉岡直人 第2分科会 精神薄弱児者施設 北星学園大学 永田勝彦 北星学園大学 太田義弘 第3分科会 身障者施設 北星学園大学 忍博次 第4分科会 老人福祉施設 北星学園大学 三吉明 北星学園大学 白沢久一 16:00～17:00 分科会報告

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1982年 (15)		テーマ「福祉と人間観」
	8月23日	9:30～10:30 開講の挨拶、オリエンテーション 10:00～11:30 講義「福祉の人間観」 北星学園大学教授 松井二郎 12:30～16:30 講義 「障害児の発達観」 緑星の里総合施設長 森岡永吾 「死への援助」 天使病院精神神経科医長・天使女子短期大学教授 村田忠良
	8月24日	9:30～12:00 シンポジウム「限界状態におけるケア」 司会 北星学園大学教授 永田勝彦 1. 国立療養所八雲病院児童指導員 桜田裕 2. 北海道リハビリテーションセンター指導課長 小野昭 3. 神愛園生活指導員 永和良之助 4. 国立札幌病院付属看護学校 山之内マリ子 12:30～16:00 セミナー 第1分科会 北星学園大学 三吉明 北星学園大学 永田勝彦 第2分科会 北星学園大学 忍博次 北星学園大学 太田義弘 第3分科会 北星学園大学 松井二郎 北星学園大学 白沢久一 第4分科会 北星学園大学 杉岡直人 北星学園大学 米本秀仁 16:00～17:30 分科会報告

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1983年 (16)		テーマ「家族変動と福祉の課題」 近年、福祉追求集団としての家族をとりまく状況や家族それ自体の変動が著しく、さまざまな問題が出されています。それは子供のしつけの問題や少年非行、離婚問題、あるいは老親扶養の問題等、家族の発達各段階においてそれぞれ固有の問題を抱えている事があげられます。一方、社会福祉施設は家族の様々な問題を解決あるいは援助する役割を果たしてきましたが、家族機能が問われている今日、改めて社会福祉施設のあり方、役割といったものを家族との関わりの中で考えてみたいと思います。
	8月26日	9:15～ 9:30 開講の挨拶、オリエンテーション 9:30～11:00 講義「現代家族の変動と福祉の課題」 北海商科大学教授 布施晶子 11:00～12:00 講義「揺れ動く家庭と少年非行」 北星学園大学助教授 相場幸子 13:00～14:00 講義「離婚と家族関係」 北星学園大学教授 石川恒夫 14:00～16:00 講義「老人問題と家族扶養」 北星学園大学教授 三吉明
	8月27日	9:30～12:00 シンポジウム「社会福祉施設と家族-福祉は家族機能を強めたか-」 司会 北星学園大学 米本秀仁 1. 元札幌市精神薄弱者育成会会長・元北海道精神薄弱者育成会副会長 住友利春 山野辺茂 2. 千歳市民生部長 樋渡喜久雄 3. 特別養護老人ホーム至心寮生活指導員 北島道之 4. 北海道立太陽の園研究室長 13:00～16:00 セミナー 第1分科会 北星学園大学 三吉明 北星学園大学 永田勝彦 第2分科会 北星学園大学 忍博次 北星学園大学 太田義弘 第3分科会 北星学園大学 松井二郎 北星学園大学 白沢久一 第4分科会 北星学園大学 米本秀仁 北星学園大学 杉岡直人 16:00～16:30 分科会報告

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1984年 (17)		テーマ「地域福祉資源のネットワーク形成」 21世紀を迎えるにあたって福祉をめぐる状況の最大の変化として高齢化社会の到来が指摘されているが、ことに過疎地域が大半を占めている北海道の場合、都市地域以上に農山漁村での人口高齢化に伴う問題は今後ますます深刻になるものと予想される。この事は福祉サービスのネットワークが地域社会の中でトータルに張り巡らされて行く事の必要性を物語っている。例えば、入浴サービス、給食サービス、デイサービスなどは今後一層定常的な福祉サービスとしてその充実を求められてくるであろうし、一人暮らし老人に対する訪問活動を中心としたホームヘルパーの活動や障害者のノーマライゼーションに伴う援助ボランティア活動も一層重視されなくてはならないであろう。
	8月24日	10:00～10:30 開講の挨拶、オリエンテーション 10:30～12:00 講義「コミュニティ形成と市民参加」 北星学園大学講師 杉岡直人 13:00～14:30 講義「地域医療システム化の理念」 元旭川厚生病院長 菅野二郎 14:30～17:00 講義「地域福祉資源のネットワーク形成」 厚生省福祉専門官 京極高宣
	8月25日	9:00～12:00 シンポジウム「福祉サービスの地域ネットワークを考える」 司会 北星学園大学 忍博次 1. 鷹栖町民生課長 島畑光信 2. 恵明園静苑ホーム副園長 中田清 3. 小樽市民生員会協議会会長 宮尾尚 4. 釧路市社会福祉協議会 中野孝 13:00～16:00 セミナー 第1分科会 北星学園大学 永田勝彦 北星学園大学 忍博次 第2分科会 北星学園大学 太田義弘 北星学園大学 白沢久一 第3分科会 北星学園大学 米本秀仁 北星学園大学 杉岡直人 第4分科会 北星学園大学 豊村和真 16:00～16:30 分科会報告

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1985年 (18)		テーマ「社会福祉施設のノーマライゼーションをめざして」 昨年度の本セミナーは「地域福祉資源のネットワーク形成」と題して、ノーマライゼーション理念によって地域(大宅)福祉を実現するには、どのような地域福祉資源をどのようにネットワーク化すれば良いのかを検討した。地域福祉、コミュニティ・ケア、あるいは在宅福祉サービスといった概念は、いずれも従来の施設収容型中心の福祉の在り方に対する批判を込めて、心身障害児・者や老人等の要援護者の在宅生活の正常化(ノーマライゼーション)を唱導したものである。 このような福祉の思潮の転換とともに、社会福祉施設、特に収容型の生活施設は、その存在意義を根底から問われ、新たな理念と対象者処遇方法を構築せねばならない時期に差し掛かっている。しかしながら、収容型の生活施設自身も決して手をこまねいていたわけではなく、既に「施設の社会化」の名の下に幾多の実践の試みを生み出しており、現在はいわば従来型の施設の在り方を脱皮しようとする過渡期にあるといえよう。このような時期に開催される今回のセミナーは、「社会福祉施設のノーマライゼーション」と題して、収容型福祉施設にノーマライゼーション概念を適用しながら、収容型福祉施設の存在意義とさらには処遇方法を含めた在り方を再検討することを狙っている。特に、重介護を必要とする人たちの施設に焦点を当てながら、その人たちの生活とは何なのか、その人たちの生活をノーマライズすることとはどういうことなのか、またその実現のための方策はどういうものなのかを問うことによってより鮮明に課題を抽出してみたい。
	8月23日	9:45～10:00 開講の挨拶、オリエンテーション 10:00～11:30 講義「ノーマライゼーションをめざして」 四国学院大学教授 中園康夫 12:30～14:00 講義「社会福祉施設のノーマライゼーションをめざして -老人福祉施設を中心に-」 北星学園大学助教授 米本秀仁 14:00～16:30 セミナーⅠ 第1分科会 北星学園大学 永田勝彦 北星学園大学 忍博次 第2分科会 北星学園大学 太田義弘 北星学園大学 白沢久一 第3分科会 北星学園大学 米本秀仁 北星学園大学 杉岡直人 第4分科会 北星学園大学 豊村和真
	8月24日	9:00～11:00 講義「英国における施設ケア-施設のノーマライゼーションを中心に-」 北星学園大学教授 松井二郎 11:00～12:30 セミナーⅡ 第1分科会 北星学園大学 永田勝彦 北星学園大学 忍博次 第2分科会 北星学園大学 太田義弘 北星学園大学 白沢久一 第3分科会 北星学園大学 米本秀仁 北星学園大学 杉岡直人 第4分科会 北星学園大学 豊村和真 13:30～16:30 シンポジウム「社会福祉施設のノーマライゼーションをめざして」 司会 北星学園大学 米本秀仁 1. 四国学院大学教授 中園康夫 2. 道立福祉村総務部長 牧野法郎 3. 第二富門華寮寮長 椎村英明 4. 国立養成所帯広病院主任指導員 坂本博司

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1986年 (19)		テーマ「転換期の社会福祉」 今日の社会福祉動向は転換期にあり、日本の無ではなく、国際的傾向になっている。この動向を、その背景・制度・実践方法等にわたって多角的に討議する必要性が今日ほど迫られているときはないものと思われる。 そこで今回、国政的動向、そして北海道での動き、実践方法の新たな課題と展望をめぐり、考え合っていきたい。特に、社会福祉施設は多くの問いかけに出会っており、今日の転換期の中で何を考え、何をすれば良いかをシンポジウムを通じて考え合い、次のセミナーへと発展させていきたい。
	8月22日	9:45～10:00 開講の挨拶、オリエンテーション 10:00～12:00 講義「内外の社会福祉動向と課題」 聖和大学教授 小田兼三 13:00～14:30 講義「北海道における社会事業の歩みと今後の課題」 北海道共同募金会常務理事 平中忠信 15:00～16:30 講義「実践活動としてのソーシャル・ワーク-視点・方法・課題-」 北星学園大学教授 太田義弘
	8月23日	9:30～12:00 シンポジウム「転換期の社会福祉」 司会 北星学園大学 白沢久一 1. 聖和大学教授 小田兼三 2. 北広島リハビリセンター施設長 芝田卓夫 3. 北光社ふくじゅ園園長 渡邊作次 4. 緑ヶ丘老人ホーム園長 稗田静男 12:00～16:00 セミナー 第1分科会 北星学園大学 永田勝彦 北星学園大学 忍博次 第2分科会 北星学園大学 太田義弘 北星学園大学 松井二郎 第3分科会 北星学園大学 白沢久一 北星学園大学 米本秀仁 第4分科会 北星学園大学 杉岡直人 北星学園大学 豊村和真

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1987年 (20)		テーマ「社会福祉の最近の動向と資格制度」 昨年度は国際社会福祉会議が東京にて開催され、盛況裡に終了しました。また昨年度の夏季セミナーは、「転換期の社会福祉」を主題に掲げ、北海道を含む内外の社会福祉の動向状況を概観しました。この社会福祉の変動状況は現在も続いております。本年度は、国際障害者年10年の折り返し点であり、また老人保健施設がスタートし、社会福祉施設最低基準の一部が改正され、さらには、去る5月27日に「社会福祉士及び介護福祉士法」が成立しました。特に社会福祉士法は、社会福祉従事者に対する国家資格制度の導入ということで、今後福祉現場及び教育現場に多大の影響を及ぼすことが予想されます。ある意味では社会福祉のハード部門の変動状況にソフト面の変動が加味されたとも言えます。本年度のテーマは、この両部門の変動状況を学ぶとともに、今後の社会福祉の展望を見出すために、以下のプログラムをもって展開することにいたしました。
	8月21日	9:40～10:00 開講の挨拶、オリエンテーション 10:00～12:00 記念講演Ⅰ「社会福祉の最近の動向」 日本社会事業大学教授 三浦文夫 13:00～14:30 記念講演Ⅱ「社会福祉の最近の動向と住民運動の役割」 明治学院大学教授 浜野一郎 15:00～16:30 分散講義「現代社会福祉のトピックスをめぐって」 Ⅰ.「クライアント(特に児童)の評価方法について」 北星学園大学専任講師 豊村和真 Ⅱ.「有償化福祉サービスとボランティア活動」 北星学園大学助教授 杉岡直人 Ⅲ.「ケア付き住宅の意味するもの」 北星学園大学教授 忍博次 Ⅳ.「有料老人ホームの動向」 北海道社会福祉協議会 齊藤衛
	8月22日	9:30～11:00 講義1「資格制度の確立と専門性の問題」 北星学園大学教授 永田勝彦 11:10～12:30 講義2「外国の資格制度の動向」 北星学園大学教授 松井二郎 13:30～17:00 シンポジウム「資格制度化を巡って」 司会 北星学園大学教授 太田義弘 1. 医療ソーシャルワーカーの立場から 天使病院 堤邑江 2. 生活相談員の立場から 道立太陽の園 佐々木明員 3. ケアワーカーの立場から 特養聖芳園 加納順子 4. 施設長の立場から おしま学園 近藤弘子 5. 福祉教育の立場から 北星学園大学 米本秀仁 17:30～19:00 懇親会

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1988年 (21)		テーマ「社会福祉における評価」 社会福祉的援助に関わる者は多くの異なる生活構造を持つ個人が社会的自立を実現できるように援助するための客観的、普遍的方法を持つことを期待されています。社会福祉における評価の問題は、まさに援助行為の出発点に位置付けられていますが、具体的には処遇場面におけるクライアントの事前評価などが含まれます。 一方、この評価の課題は社会福祉的援助に関わる者にとって、自らの実践力量が問われる問題に結びつくものであり、今日、ノーマライゼーションの理念が強調される中で広く援助の在り方の変化を生み出してきたといえます。 こうしたことから社会福祉的援助の基本となる評価の問題を体系的に取り上げておく時期を迎えているという理解の下に、プログラムの第一日目に方法論的な問題の整序を踏まえた上で、二日目のシンポジウムでは評価の問題に直接関わっておられる方々から問題提起を受けて論議を深めていきたいと考えています。
	8月26日	9:15～ 9:30 開講の挨拶、オリエンテーション 9:30～10:30 講義Ⅰ「ソーシャルワークにおけるアセスメントの課題」 北星学園大学教授 太田義弘 10:30～12:00 講義Ⅱ「クライアントの評価」 北星学園大学助教授 豊村和真 13:00～14:30 講義Ⅲ「家族診断法」 日本社会事業大学教授 小松源助 14:30～16:00 講義Ⅳ「施設運営の評価」 東京都老人総合研究所社会福祉研究室長 冷水豊
	8月27日	9:30～12:30 シンポジウム 司会 北星学園大学教授 永田勝彦 Ⅰ. 自閉症児の評価 のぞみ学園 川守田京子 Ⅱ. 精神遅滞者の評価 北海道立太陽の園 佐々木明員 Ⅲ. 身体障害者の評価 北海道心身障害者総合相談所 遠藤佳宏 Ⅳ. 痴呆性老人の評価 慈啓会病院 川島優幸 Ⅴ. 家族診断 北海道中央児童相談所 平澤成一 13:30～15:30 セミナー 第1分科会 北星学園大学 永田勝彦 北星学園大学 忍博次 第2分科会 北星学園大学 松井二郎 北星学園大学 白沢久一 第3分科会 北星学園大学 相場幸子 北星学園大学 大坊郁夫 第4分科会 北星学園大学 米本秀仁 北星学園大学 杉岡直人 第5分科会 北星学園大学 豊村和真

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1989年 (22)		テーマ「在宅福祉サービスの現状と課題」 高齢化社会の到来の中で在宅福祉の重要性が叫ばれ、我が国の社会福祉の重点も『施設福祉から在宅福祉』へと変わりつつありますが、我が国の在宅福祉サービスの現状は様々な問題を抱え、解決を必要とする多くの課題に直面しております。 今回のセミナーにおいては、在宅福祉政策の動向、海外における在宅福祉サービスの試み、北海道における在宅福祉の現状と課題を講義を通して学ぶと共に、シンポジウムを通して老人に対する在宅福祉の現状と課題を様々な観点から検討してみたいと思います。
	8月25日	9:50～10:00 開講の挨拶、オリエンテーション 10:00～12:00 講義Ⅰ「在宅福祉論の背景と政策の動向」 全国社会福祉協議会高年福祉部長 和田敏明 13:00～14:30 講義Ⅱ「英国における在宅福祉のひとつの実験-ケント州の実践例から学ぶもの-」 日本女子大学教授 田畑光美 15:00～16:30 講義Ⅲ「北海道の在宅福祉の現状と課題」 北星学園大学教授 忍博次
	8月26日	9:30～12:30 シンポジウム「老人に対する在宅福祉サービスの現状と課題」 司会 北星学園大学助教授 杉岡直人 Ⅰ. 家庭奉仕員制度の現状と課題 北海道ホームヘルパー協会会長 田村敏子 Ⅱ. 訪問看護体制の現状と課題 保健婦、社会福祉士 平野憲子 Ⅲ. 女性の視点から見た在宅福祉の問題 主婦 蓮池美幸 Ⅳ. 在宅福祉と住宅問題 北海道建設工学専門学校教授 佐藤克之 Ⅴ. 福祉施設からみた在宅福祉の課題 特別養護老人ホーム誠徳園施設長 伊藤義矩 12:30～15:00 交流会とセミナー

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1990年 (23)		テーマ「在宅ケアの可能性と限界」 市町村を主体とする福祉サービスのあり方が、具体的な政策転換となって表れつつあります。現時点における地域での取り組みを見据えた適切な政策が展開されるためにはどのような視点に立った議論が必要なのか、具体的な問題を立てて検討していきたいと思います。昨年は「在宅福祉サービスの現状と課題」について取り組みましたので、今年度はさらに新しい政策的視点を求めて議論を深めたいと思います。
	8月24日	9:50～10:00 開講の挨拶、オリエンテーション 10:00～12:00 講義Ⅰ「英国におけるコミュニティ・ケアの動向について-「福祉多元主義」をめぐる-」 北星学園大学教授 白沢久一 13:00～14:30 講義Ⅱ「在宅福祉サービスのミニマム設定」 都社協 森本佳樹 15:00～16:30 講義Ⅲ「北海道の高齢者地域ケア政策」 北海道生活福祉部社会老人課地域福祉係長 坂井信
	8月26日	9:30～12:30 シンポジウム「在宅ケアの可能性と限界—その各自の役割と限界について—」 司会 北星学園大学教授 忍博次 Ⅰ. 老人ホームの立場から-Day ServiceやShort Stayも含めて- 恵望園主任指導員 岩村寛昭 Ⅱ. 福祉事務所の立場から 富良野市福祉事務所保護課長 西浜勇一 Ⅲ. 地区社協の立場から 白老町社会福祉協議会 小田井 Ⅳ. 民生委員の立場から 元北海道大学教育学部留学センター主事 伊藤博 12:30～15:00 交流会とセミナー

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1991年 (24)		テーマ「痴呆・ねたきり老人のインフォーマル(親族、近隣、友人)ケアについて」 市町村を主体とする福祉サービスの改革が、具体的となりつつあります。現時点における地域での取り組みを見据えた「分権と参加」の適切な政策が展開されるためには、どのような視点に立った議論が必要なのか、検討していきたいと思います。すでに一昨年は「在宅福祉サービスの現状と課題」、昨年は「在宅ケアの可能性と限界」について取り組みましたので、今年度はさらに新しい視点を求めて議論を深めたいと思います。
	8月23日	9:50～10:00 開講の挨拶、オリエンテーション 10:00～12:00 講義Ⅰ「在宅痴呆老人の介護について」 北海道立向陽ヶ丘病院院長 高橋三郎 13:00～14:30 講義Ⅱ「寝たきり老人のリハビリについて」 勤医協札幌丘珠病院副院長リハビリテーション科々長 岡本五十雄 15:00～16:30 講義Ⅲ 「インフォーマルケアについて-全道ねたきり老人の介護者の実態調査より-」 北星学園大学助教授 杉岡直人
	8月24日	9:30～12:30 シンポジウム「痴呆・ねたきり老人のインフォーマル(親族、近隣、友人)ケアについて」 司会 北星学園大学教授 米本秀仁 I. ホームヘルパーの立場から 札幌市西福祉事務所医療助成係・家庭奉仕員 梅村すみ子 II. 保健婦の立場から 早来町役場・保健婦 石城赫子 III. 在宅介護支援センターの立場から 在宅介護支援センター釧路鶴ヶ岱啓生園・主任 大森俊也 IV. ぼけ老人を支える家族の立場から 小樽地区ぼけ老人を支える家族の会・事務局長 柳沢一男 12:30～15:00 交流会とセミナー

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1992年 (25)		テーマ「福祉供給の多様化と問題点」 福祉多元主義、福祉ミックス、民営化、等の言葉が示唆するように、最近における社会福祉の動向の顕著な特徴の一つとして、福祉供給の多様化があげられる。平成3年度の「厚生白書」もまた「広がりゆく福祉の担い手たち：活発化する民間サービスと社会参加活動」と題して、民間市場(企業)による福祉供給、ボランティアによる福祉供給の重要性を強調している。今年度のセミナーにおいては、国内外の福祉供給の多様化の動向を視野に入れながら、我が国における施設福祉・在宅福祉の民営化、非営利型の福祉供給等の動向をとりあげ、今後の課題を検討したい。
	8月21日	10:15～10:30 開講の挨拶、オリエンテーション 10:30～12:00 講義Ⅰ「日本型福祉ミックスとその問題点」 北星学園大学教授 松井二郎 13:00～14:30 講義Ⅱ「日本の福祉政策の動向-主要欧米諸国の福祉政策と対比して-」 立教大学教授 佐藤進 15:00～16:30 講義Ⅲ「米国における福祉供給の特徴と問題点」 札幌医科大学教授 前田信雄
	8月22日	9:30～12:30 シンポジウム「福祉供給の多様化と問題点」 司会 北星学園大学教授 白沢久一 Ⅰ. 有料老人ホームの現状と問題点 北星学園大学教授 米本秀仁 Ⅱ. 非営利型在宅福祉サービスの現状と課題 市民生協社会福祉基金副理事長 田中シノブ Ⅲ. 在宅福祉サービスの多様化と課題 北海道社会福祉協議会地域福祉課長 林恭裕 Ⅳ. 福祉供給の多様化と公的福祉の役割 札幌学院大学助教授 横山純一 12:30～15:00 交流会とセミナー

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1993年 (26)		テーマ「地域福祉と地方自治」 超高齢化社会を迎える中、福祉関係8法改正に見られるように、我が国の社会福祉は今、福祉の実施主体としての市町村の重視、施設福祉と在宅福祉の一元化、老人保健福祉計画の策定、等にむけて、大きく転換しつつあります。本年度のセミナーにおいては、市町村段階重視の動向を視野に入れ、老人保健福祉計画と地方自治、東京都中野区における福祉オンブズマン制度の試み、地域福祉と地方自治を課題にして、講義を中心に展開したいと思います。
	8月21日	10:20～10:30 開講の挨拶、オリエンテーション 10:30～12:00 講義Ⅰ「老人保健福祉計画と地方自治」 北星学園大学教授 米本秀仁 13:00～14:30 講義Ⅱ「東京・中野区における地域福祉計画と福祉オンブズマン」 中野区保健衛生部副参事 大澤準一 15:00～16:30 講義Ⅲ「地域福祉と地方自治-イギリスのコミュニティ・ケア改革をめぐって-」 明治学院大学教授 浜野一郎

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1994年 (27)		テーマ「在宅福祉の時代における福祉施設の役割」 少子・高齢社会が進行する中で、社会福祉制度は福祉関係8法の改正以来、「保育問題検討会報告書」「21世紀福祉ビジョン」等を経由して、ゴールドプランにおいてもホームヘルパー20万人体制が打ち出され、一層の自由(競争)化・地域システム化・在宅化等が図られようとしています。その中で従来の福祉施設にも大きな変貌を迫られていると言えます。本セミナーではここ数年在宅福祉を主題に展開してきましたが、本年は在宅福祉の時代における「福祉施設」の役割を再度見直す必要があると考え、表記テーマを設定しました。本年は再び2日間の日程を組み、福祉における在宅と施設の関係、福祉施設をめぐる最近の同国を捉える講義、そして特に「施設機能の複合化」に焦点を当てたシンポジウム、参加者の意見交換を意図したセミナー等をプログラムに組み込み、福祉施設の役割を再考してみたいと思います。
	8月22日	10:00～10:20 開講の挨拶、オリエンテーション 10:30～12:00 講義Ⅰ「施設ケアの評価基準に関する最近の動向-イギリス政府関係の報告書を中心に-」 北星学園大学教授 松井二郎 13:00～14:30 講義Ⅱ「在宅福祉の時代における社会福祉施設の諸課題」 日本女子大学教授 小笠原裕次 15:00～16:30 講義Ⅲ『施設機能複合化』の背景と現実 北星学園大学教授 米本秀仁
	8月23日	9:30～12:30 シンポジウム「施設機能複合化の光と影」 司会 北星学園大学教授 米本秀仁 北星学園大学専任講師 池田雅子 児童福祉施設の場合 養護施設函館くるみ学園園長 堀田保 重症心身障害児者施設の場合 札幌あゆみの園指導主任 村田修 知的障害児者施設の場合 精神薄弱者授産施設釧路北の杜舎ソーシャルワーカー 安井愛美 老人福祉施設の場合 函館カリタスの園(特養旭が岡の家)企画室長 祐川尚素 13:30～16:00 セミナー(7つの分散会による自由討議) 討議主題:施設の現状と課題/施設の在宅サービス(機能複合)の現状と課題/ 施設処遇の現状と課題他

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1995年 (28)		テーマ「社会福祉における価値の問題」 社会福祉の発達、人権や政策に関わる価値の問題と密接なかわりを持ちながら現段階の福祉基準をつくりだしており、実践・理論・政策あるいは計画の各位相において価値の問題が常に問い直されています。社会福祉の歴史の中で、それは貧困に対する自己責任から国家責任と言う考え方の転換やソーシャルワーク実践においてもクライアントに対する援助の在り方が多様化しております。今後の福祉課題を明らかにする上で、福祉のシステムやサービスのあり方そして人権のあり方に根本的な関わりを持つ価値の問題を正面に捉えて取り組む時期を迎えていると考えて、実践科学としての社会福祉学の再検討(第1日目)を踏まえて、2日目のシンポジウムにおいて「福祉サービスと人権」をめぐって具体的な関係領域のスタッフの方々からの問題提起を受けて、参加者の皆さんと共に議論を深めて行きたいと思います。
	8月21日	10:00～10:30 開講の挨拶、オリエンテーション 10:30～12:00 講義Ⅰ「ソーシャルワーク実践における価値の課題」 淑徳大学教授 仲村優一 13:00～14:30 講義Ⅱ「価値としての社会福祉」 北星学園大学教授 永田勝彦 15:00～16:30 講義Ⅲ「福祉計画における価値について」 関西学院大学教授 高田真治
	8月22日	10:30～12:00 シンポジウム「福祉サービスと人権」 司会 北星学園大学教授 杉岡直人 児童の人権 羊ヶ丘養護園チャイルド・アドボケーター 佐々木明美 在宅福祉サービスにおける人権の問題 札幌市在宅福祉サービス協会常務理事 吉村信義 障害者の地域自立と人権 メビウスの会 我妻武 精神障害者の社会復帰における人権 総合病院浦河赤十字病院医療社会事業係長 向谷地生良 13:00～15:00 分科会(自由討議) 第1分科会 永田教授 第2分科会 忍教授 第3分科会 松井教授 第4分科会 杉岡教授 第5分科会 横山教授 第6分科会 池田専任講師 第7分科会 高橋専任講師 第8分科会 林専任講師 第9分科会 中田専任講師

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1996年 (29)		テーマ「公的介護保険を考える」 日本はつい最近、高齢者比率が14%台に達したことにより、高齢化社会から高齢社会に移行した。しかも、今後の日本の高齢化テンポは著しく早まる。2020年には日本の高齢者比率は25%台になると予想され、日本は先進産業国家の中で最も高齢化が進んだ国となる。その頃には、要援護高齢者数も寝たきり高齢者の数も現在の2.5倍になる見込みである。そして現在、シルバーハラスメントが大きな問題となっており、また介護地獄という言葉が新しい現代用語となりつつある。少子化社会も進行しているし、親と子の同居率も低下し続けている。そこで、社会的介護の重要性が強く認識される必要があるし、充実した公的介護制度が早急に構築されなければならない。国は、1989年のゴールドプラン以降、老人福祉法の改正、自治体への老人保健福祉計画策定業務付け、新ゴールドプラン等注目すべき高齢者福祉施策を次々と打ち出してきた。6月の国会への法案提出が話題になった(結局断念された)公的介護保険制度も、このような国の一連の政策の一つである。しかし、公的介護保険には各界各層の人々が意見を表明したがその導入についての賛否は分かれた。 本セミナーでは、公的介護保険をテーマに選んで多様な視点からこれに検討を加え、そのうえで今後の日本において、どのような公的介護保険の構築が最も望ましいかについて考察することにした。
	8月23日	10:00～10:30 開講の挨拶、オリエンテーション 10:30～12:00 講義Ⅰ「医療費と医療政策の動向」 国立医療・病院管理研究所医療経済研究部長 小山秀夫 13:00～15:00 講義Ⅱ「高齢社会の到来と高齢者福祉の課題」 北星学園大学教授 横山純一 15:00～15:45 講義Ⅲ「ドイツの介護保険制度について」 北星学園大学専任講師 倉田聡 15:45～16:30 講義Ⅳ「家族介護の現状と在宅ケアシステムの再検討」 北星学園大学教授 米本秀仁
	8月24日	10:00～12:00 シンポジウム「高齢者ケアと地域の課題」 司会 北星学園大学教授 米本秀仁 ドイツにおける高齢者介護 北海道新聞社生活部 石川郁 行政の立場から高齢者介護を考える 栗山町役場福祉課主幹 吉田義人 施設の立場から高齢者介護を考える 聖芳園施設長 石川秀也 医療と地域ケアの課題 北星学園大学専任講師 高橋学 13:00～15:00 分科会(自由討議) 第1分科会「公的介護保険を考えるⅠ」 松井教授・鎮目助手 第2分科会「公的介護保険を考えるⅡ」 横山(純)教授・倉田専任講師 第3分科会「高齢者ケアと地域の課題」 米本教授・池田専任講師 第4分科会「高齢者ケアとジェンダー」 杉岡教授・林専任講師・中田専任講師・ペング専任講師 第5分科会「高齢社会と医療」 忍教授・横山(穰)助教授・高橋専任講師

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1997年 (30)		テーマ「『介護保険法』の仕組みと実践現場」 本年度もまた、昨年度に引き続き「介護保険法」を取り上げるようになった。国会に上程され審議の結果継続審議となったが、今後成立するかしないかは別にして、本法の構想は社会保障の構造改革の先行的施策と位置付けられるところから、その意図や仕組みを理解することは重要であると考えられる。本年度は特に、本法を背景、特に医療保険改革を含む社会保障の全般的動向と絡めて理解するとともに、本法の仕組みを徹底的に解剖し、且つとりわけ本法が福祉・保健・医療の実践現場に与えられるであろう影響を予測することを趣旨とする。
	8月22日	10:00～10:10 開講の挨拶、オリエンテーション 10:10～12:00 講義Ⅰ「介護保険法の成立背景-社会保障の動向から-」 大阪府立大学社会福祉学部教授 里見賢治 13:00～16:00 講義Ⅱ「介護保険法案を解剖する」 北星学園大学社会福祉学部専任講師 倉田聡
	8月23日	9:00～12:30 シンポジウム「介護保険法が実践現場に与える影響を考える」 司会 北星学園大学教授 忍博次 要介護認定を巡って 札幌市北区福祉部地域福祉課 秋野純一 ケアマネジメントを巡って 札幌医科大学保健医療学部講師 平野憲子 医療施設運営を巡って 医療法人湊仁会医療福祉部長 岩見太市 福祉施設運営を巡って 特別養護老人ホーム旭ヶ岡の家副施設長 祐川真一 13:30～16:00 分科会(自由討議) 第1分科会「介護保険法を考える」 横山(純)教授・倉田専任講師・林専任講師 第2分科会「要介護認定を巡って」 高橋専任講師・中田専任講師 第3分科会「ケアマネジメントを巡って」 忍教授・杉岡教授・池田専任講師 第4分科会「医療施設運営を巡って」 横山(穰)助教授・鎮目専任講師 第5分科会「福祉施設運営を巡って」 松井教授・米本教授・ペング専任講師

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1998年 (31)		テーマ「子育てとその社会的支援のあり方-日本とカナダの比較を通して-」 本年度のテーマは、「子育てとその社会的支援のあり方」を取り上げることにしました。子育てを巡っては、我が国だけではなく、多くの先進国においても色々な形で議論されています。特に子育てを取り巻く環境の変化をどのように捉えるか、また環境の変化に応じた施策をどのように展開していくかという問題は、21世紀の少子高齢社会を目前にした私たち自身が取り組まなければならない課題とも言えます。わが国でも、1994年のエンゼルプランに見られるように、これまでよりも広い視野から子育てを取り上げ、その社会的支援のあり方を議論するようになってきました。昨年度には、児童福祉法も改正され、児童の自立支援、保育所、母子家庭の支援について新たな施策がとられました。この改正を巡って、家族、地域、行政のそれぞれが子育てにどのように関わっていくべきかを改めて考えさせられた方も多いと思います。 本年度セミナーは、このような状況から、大学だけではなく、広く色々な立場の方々に集まっていただき、子育てとその社会的支援のあり方を共に考えて行きたいと思います。幸いことに、本年度はカナダ政府から「カナディアン・スタディーズ・プログラム (Canadian Studies Program)」からの助成金を受けることができました。この助成金は、我が国とカナダの相互理解を深めるための学術交流を目的としており、その一部をセミナーに取り入れることができました。わが国とカナダの専門家をお招きして報告を頂き、これまでよりも多くの質問や討論の時間を割く予定です。また、当日は通訳の方をお願いし、報告の日本語訳を配布する等、なるべく多くの方々と外国の事情に接する機会を分かち合いたいと考えております。同じような問題を抱えている二つの国がどのように子育ての問題に取り組んでいるかを知ることが、我が国の問題だけを考えるよりも実りのある成果をもたらすものと信じております。
	8月21日	9:30~10:00 開講の挨拶、オリエンテーション 10:00~11:30 報告Ⅰ「カナダにおける家族政策の動向-ジェンダーの視点から-」 ヨーク大学社会福祉学部助教授 パトリシア・エヴァンズ 11:30~12:30 報告Ⅱ「日本における家族政策の同国-ジェンダーの視点から-」 北海道教育大学札幌校教授 笹谷晴美 13:30~14:30 報告Ⅲ「日本における『子育て』・子育て支援のあり方」 駒沢大学教授・日本愛育総合研究所児童家族福祉研究部長 高橋重宏 14:30~16:00 報告Ⅳ「カナダにおける『子育て』・子育て支援-※CAS (Children's Aid Society) の実践を通して-」
	8月22日	9:30~12:00 パネル・フロアディスカッション 司会 北星学園大学専任講師 倉田聡 「報告Ⅰ・Ⅱに関するコメントと問題提起」 北星学園大学専任講師 イト・ペング 「報告Ⅲ・Ⅳに関するコメントと問題提起」 北星学園大学専任講師 林浩康 13:00~15:00 分科会(自由討議) 第1分科会「家族政策とジェンダー」 イト・ペング 鎮目真人 第2分科会「子供の権利保障のあり方」 松井二郎 池田雅子 第3分科会「子育て支援のあり方」 横山穰 林浩康 第4分科会「家庭・学校・地域における子供の生きづらさ」 杉岡直人 高橋学 第5分科会「保育所制度の動向とその問題点」 米本秀仁 倉田聡

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
1999年 (32)		テーマ「新しい障害概念を巡って」 世界保健機関(WHO)が1980年に刊行した「国際障害分類(ICIDH)」で、「障害」を生物学レベルでの「機能障害(インペアメント)」、人間個人の能力レベルでの「能力障害(ディスアビリティ)」及び社会的存在としての人間レベルでの「社会的不利(ハンディキャップ)」と構造化したことにより、障害とは何か、またそれぞれのレベルでどう対処すべきかが明らかになりました。 特に障害を環境との関係で捉えたシャカ的不利という概念が取り入れられたことにより、障害が社会的環境の不備でもたらされる事—つまり、障害を持つ人たちの「完全参加と平等」を実現するためには、社会的環境を改善する必要がある事が、広く認識されるようになりました。その結果、従来障害を持つ人たちの地域社会への参加を妨げてきた制度や物理上の障壁などを含む、社会的環境改善への取り組みが積極的に進められてきました。 WHOの障害構造論がもたらしたインパクトは、必ずしも障害を持つ人々たちへの対策に留まらず、全ての人々にとって住みやすい地域社会づくりを進める契機にもなったと言う意味では、極めて大きなものがあったと思います。 しかし、従来の障害概念で用いられてきた能力障害及び社会的不利が否定的な表現となっている事、また、障害への環境の影響の強調が部十分などの批判が障害当事者団体や専門職団体などから強く出ていた事を受け、WHOでは1990年代初めからその改定作業に取り組んできました。その作業はほぼ最終段階を迎え、2001年にジュネーブで開かれるWHO総会でこの改訂案の採択が予定されています。この新しい障害概念は、おそらく世界的に従来以上に大きな影響を与えることになると思われます。 新しい障害概念とその臨床現場での位置付けなどをテーマとした今回のセミナーを、北海道におけるこれからの保健福祉のあり方を考える上で有意義な機会に出来ればと願っています。
	8月27日	10:00～10:10 開講の挨拶、オリエンテーション 10:10～12:10 基調講演「新しい障害概念とWHO国際障害分類について」 日本社会事業大学客員教授・元東京大学医学部教授 上田敏 13:30～16:00 シンポジウム「新しい障害概念とWHO国際障害分類の臨床へのインパクト」 司会 北星学園大学社会福祉学部教授 松井亮輔 助言者 日本社会事業大学客員教授・元東京大学医学部教授 上田敏 発題Ⅰ リハ医学の立場から 国立長寿医療研究センター老人ケア研究部長 大川弥生 発題Ⅱ 精神医学の立場から 北星学園大学社会福祉学部教授 山下格 発題Ⅲ 社会福祉の立場から 北星学園大学社会福祉学部教授 忍博次 発題Ⅳ 当事者の立場から DPI日本会議副議長 西村正樹
	8月28日	10:00～12:00 報告「新しい障害概念をどう理解するか」 司会 北星学園大学社会福祉学部助教授 横山穰 報告Ⅰ 地域福祉の立場から 北星学園大学社会福祉学部教授 砂子田篤 報告Ⅱ 高齢者福祉の立場から 北星学園大学社会福祉学部教授 米本秀仁 報告Ⅲ 障害者福祉の立場から 北星学園大学社会福祉学部教授 松井亮輔 13:00～15:00 グループディスカッション「新しい障害概念をめぐる」 第1分科会 砂子田篤 第2分科会 米本秀仁 第3分科会 松井亮輔 第4分科会 横山穰 第5分科会 林浩康

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
2000年 (33)		テーマ「社会福祉基礎構造改革の課題と方向-改革の背景・市場原理の導入・社会福祉事業法等の改正を巡って-」 このたびの「社会福祉基礎構造改革」についても、第1日目では社会福祉理論の展開も踏まえて改革に関する政策評価を行うと同時に、社会保障制度全体に及ぶ市場経済導入システムとの関連を大局的視野から捉え、第2日目には各分野における課題を地域福祉、高齢者福祉或いは児童福祉、障害者福祉について考察し、今後の社会福祉制度・サービスのあり方について議論する機会を持つことを考えています。
	9月1日	10:00～10:20 開催の挨拶、オリエンテーション 10:20～12:00 基調講演Ⅰ「社会福祉基礎構造改革の背景とその方向」 北星学園大学社会福祉学部長 松井二郎 13:30～15:00 基調講演Ⅱ「社会福祉基礎構造改革の基本課題-利用契約・市場原理導入の論理-」 上智大学国際関係研究所教授 八代尚宏 15:00～16:30 基調講演Ⅲ「社会福祉基礎構造改革と社会福祉事業法等の改正」 東洋大学社会学部長教授 古川孝順 16:45～17:30 全体討論 司会 北星学園大学福祉臨床学科長教授 松井亮輔
	9月2日	10:00～12:00 分野別課題報告 司会 北星学園大学社会福祉学部専任講師 鎮目真人 1. 地域福祉との関わり 北星学園大学社会福祉学部教授 大内高雄 2. 高齢者福祉との関わり 社会福祉法人幸清会幸豊ハイツ施設長 大久保幸積 3. 児童福祉との関わり 北星学園大学社会福祉学部助教授 林浩康 4. 障害者福祉との関わり 太陽の園作業訓練部部长 佐々木明員 13:00～15:00 グループ討論 第1分科会 松井二郎・中川純 第2分科会 松井亮輔・林浩康 第3分科会 米本秀仁・鎮目真人 第4分科会 杉岡直人・根岸毅宏 第5分科会 大内高雄・中田知生

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
2001年 (34)		テーマ「北の大地から施行1年の介護保険を検証する」 北海道は施設福祉の充実した地域として知られていますが、これを基礎として、本格的な介護保険制度の推進を図る上で、積雪寒冷地域の特性を考慮に入れた快適なサービス利用体系をめざす事は、北の国発のアイディアと成果を問うものとして時宜を得たものとなるでしょう。
	9月3日	10:00～10:15 開催の挨拶、オリエンテーション 10:15～12:00 講演Ⅰ「介護サービスと消費者契約」 国民生活センター研修生活部主任研究員・ 厚生労働省老健局サービス評価検討委員会委員 木間昭子 13:30～14:10 講演Ⅱ 「全国レベルから見た介護保険制度の実施状況と課題」 厚生労働省老人福祉専門官・シルバーサービス専門官 矢部正治 14:10～14:50 講演Ⅲ「北海道における介護保険制度の実施」 北海道保健福祉部高齢者保健福祉課長 井上誠一 15:00～17:00 シンポジウム「福祉現場から介護保険制度を考える」 コーディネーター 北星学園大学福祉計画学科長教授 杉岡直人 事業者の立場から 特別養護老人ホーム羊蹄ハイツ施設長・ 北海道老人福祉施設協議会委員 追立正夫 研究者の立場から 北海道浅井学園大学人間福祉学部教授 太田貞司 消費者の立場から 木間昭子 厚生労働省の立場から 矢部正治 北海道庁の立場から 井上誠一
	9月4日	10:00～12:00 テーマ解説「ケアマネジメントの評価を巡って」 解説Ⅰ「介護支援専門員の現状と課題」 福祉臨床学科教授 米本秀仁 解説Ⅱ「ケアマネジメントと給付管理」 福祉計画学科助教授 島津淳 解説Ⅲ「現場からケアマネジメントを問う」 医療法人溪仁会居宅介護 支援事業所 厚別ハーティケアセンター所長 奥田龍人 13:00～15:00 分科会 1. 介護報酬 島津淳・根岸毅宏 2. 要介護認定及び不服申し立てとサービスに対する苦情 大内高雄・林浩康 3. ケアマネジメント 米本秀仁・高橋学 4. サービス評価 横山穰・鎮目真人 5. 介護保険と市民参加(NPO含む) 杉岡直人・池田雅子 6. 介護保険と障害者問題 松井亮輔・西田充潔

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
2002年 (35)		テーマ「社会福祉の新潮流を読む-社会における「排除と包摂」及びセーフティネット-」 社会保障構造改革・介護保険制度・社会福祉基礎構造改革と言った一連の社会保障・社会福祉領域の変動は、今後も継続が予想されている。わが国社会が長期停滞経済とグローバリゼーションの流れにおいて、国民の「痛み」が増幅している中で、社会の通常の生活から「排除」されてる人々が増大し、果たして社会が講師のネットワークによってそれらの人々を「包摂」出来るかが問われている。本セミナーにおいては、このような問題状況と社会保障・社会福祉の新潮流を批判的に読むことによって、今後の輪が社会に、政策的にも実践的にもセーフティネット(安全網)を張り巡らすための方策を考察する。
	8月29日	9:45～10:00 開催の挨拶、オリエンテーション 10:00～12:00 基調講演Ⅰ「長期停滞経済・グローバリゼーション・セーフティネット-我が国・社会の問題状況の批判的分析-」 東京大学大学院経済学研究科・経済学部教授 神野直彦 13:30～15:00 基調講演Ⅱ「社会における排除と包摂-『社会的援護を必要とする人々に対する社会福祉のあり方に関する検討会』報告書を巡って-」 日本福祉大学社会福祉学部教授 平野隆之 15:15～17:30 シンポジウム「社会福祉マクロ・ミクロにおけるセーフティネット」 コーディネーター① 北星学園大学教授 米本秀仁 コーディネーター② 北星学園大学助教授 鎮目真人 発題Ⅰ「セーフティネット論からみた支援費支給制度」 北海道立太陽の園児童施設ひまわり学園施設長 佐々木明員 発題Ⅱ「ホームレスの実態とセーフティネット」 北海道大学大学院教育学研究科教育臨床講座助手 佐々木宏 発題Ⅲ「地域福祉計画はセーフティネットたり得るか」 北星学園大学助教授 島津淳 発題Ⅳ「セーフティネットとしてのソーシャルワーカー」 北海道函館児童相談所長 宮地迪彦
	8月30日	10:00～15:00 分科会(動向の分析と討論) 共通論題「各動向は排除を減じ包摂を増し、セーフティネットたりうるか」 第1分科会「社会福祉政策の動向」 コーディネーター 北星学園大学助教授 島津淳 報告 北星学園大学助教授 鎮目真人 指定討論 北星学園大学教授 松井二郎 第2分科会「貧困化と生活保護」 コーディネーター 北星学園大学専任講師 根岸毅宏 報告 札幌学院大学教授 津田光輝 指定討論 北星学園大学助教授 K. U. ネンシュティール 第3分科会「地域福祉計画と実践」 コーディネーター 北星学園大学助教授 池田雅子 報告 北星学園大学教授 大内高雄 指定討論 北星学園大学教授 杉岡直人 第4分科会「施設福祉実践」 コーディネーター 北星学園大学教授 砂子田篤 報告 北海道医療大学教授 横井寿之 指定討論 北星学園大学教授 米本秀仁 第5分科会「専門職実践の方向」 コーディネーター 北星学園大学専任講師 西田充潔 報告 北星学園大学専任講師 久能由弥 指定討論 北広島市高齢者総合ケアセンター聖芳園園長 石川秀也

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
2003年 (36)		テーマ「21世紀地域福祉の課題と展望-地域社会における新たな公共の創造を目指して-」 日本社会のリスストラクチャング(再構築)が進んでいる。市町村を保険者とする介護保険制度は、急速に利用者の拡大を見ており、介護保険財政を含めた見直しが避けられない。2005年には、保険料の徴収年齢の引き下げや支援費制度との統合の可能性も含めた本格的な検討も予想されている。この動きの中で、一貫した展開を導く理念は、地域自立生活支援の推進であり、地域福祉サービスの供給の多様化やサービスの評価或いは、利用者サイドに立つ契約的関係の視点である。行政サービスのより効果的効率的提供は、民間セクターのきめ細やかな対応を取り入れると同時に、NPO等の市民事業が新たな公共の担い手として登場することで、大きな前進を図る事が期待されている。地域住民の責務を問う今後の地域福祉推進の課題を具体的に掘り下げて討論する。
	9月2日	9:45～10:00 開催の挨拶、オリエンテーション 10:00～11:30 基調講演Ⅰ「21世紀地域福祉の課題と展望」 日本福祉大学大学院社会福祉学研究科長・ 日本地域福祉学会事務局長 野口定久 11:30～13:00 基調講演Ⅱ「住民主体の地域福祉とは何か」 長崎国際大学人間社会学部教授 山本主税 14:00～17:30 シンポジウム「地域社会における新たな公共の創造を目指して-住民主体と地域自立生活支援を巡って」 コーディネーター① 北星学園大学教授 杉岡直人 コーディネーター② 北星学園大学助教授 砂子田篤 助言者 野口定久・山本主税 発題Ⅰ「地域福祉サービスの担い手としての福祉NPO」 NPO法人地域福祉支援センター小さな手理事長 清野光彦 発題Ⅱ「社会福祉施設の地域福祉戦略」 北広島リハビリセンター特養部四恩園施設長 三瓶徹 発題Ⅲ「分権時代の行政運営-サービスのアウトソーシング」 栗山町助役 高倉淳 発題Ⅳ「地域福祉時代の社協活動」 釧路市社会福祉協議会事務局長 中野孝士
	9月3日	10:00～15:00 参加型分科会(話題提供と討論) 共通論題「地域福祉実践の現状と問題点」 第1分科会「介護保険制度の総括と見直し」 コーディネーター 北星学園大学専任講師 中川純 報告 北星学園大学助教授 島津淳 指定討論 北星学園大学助教授 高橋学 第2分科会「支援費制度の現状と問題点」 コーディネーター 北星学園大学助教授 田中耕一郎 報告 社会福祉法人札幌この実会 中央区サポートセンター相談室ぼぼ室長 大久保薫 指定討論 北星学園大学助教授 砂子田篤 第3分科会「福祉サービス評価と苦情解決」 コーディネーター 北星学園大学教授 米本秀仁 報告 北海道福祉サービス運営適正化委員会専門員 佐藤みゆき 指定討論 北星学園大学助教授 中田知生 第4分科会「地域福祉計画の現状と問題点」 コーディネーター 北星学園大学教授 大内高雄 報告 札幌市保険福祉局総務部総務課計画担当係長 川端健治 指定討論 北星学園大学助教授 池田雅子 第5分科会「子育て支援の現状」 コーディネーター 北星学園大学助教授 林浩康 報告 談話室「ゆらゆら」主宰 矢島満子 指定討論 北星学園大学専任講師 西田充潔

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
2004年 (37)		テーマ「子供虐待とその対応のあり方」 近年の子供虐待の顕在化は児童福祉実践のあり方を大きく問い直す契機となっている。共同体機能としての家族の幻想性及びその逆機能について指摘される中で、現代家族の密室性・閉鎖性の問題点が明らかとなってきた。子供虐待はその典型例であると言える。 本セミナーではこうした問題意識から虐待を行う親及び被虐待の経験を持つ子供への対応のあり方について考えることを目的としている。
	8月31日	9:45～10:00 開催の挨拶、オリエンテーション 10:00～12:00 基調講演「虐待の支援とは」 原宿カウンセリングセンター所長 信田さよ子 13:00～13:45 基調報告「私と子供を救ったもの」 虐待防止自助グループ「ふくろうの家」 桐木純子 13:45～16:30 シンポジウム「虐待の予防的取り組みと回復的ケア」 コーディネーター 北星学園大学助教授 林浩康 助言者 信田さよ子・桐木純子 発題Ⅰ「発生予防としての子育て支援」 石狩市地域子育て支援センター長 坪田清美 発題Ⅱ「早期発見・早期対応としての子育て支援」 興正子供家庭相談センター長 秦直樹 発題Ⅲ「親の回復的ケアとしての自助グループの取り組み」 母子相談室「みみずく」カウンセラー 相場幸子 発題Ⅳ「子供の自立支援～児童養護施設の立場から」 美深子供家庭支援センター長 小川恭子
	9月1日	10:00～15:00 参加型分科会(自由討論) 第1グループ 福祉臨床学科助教授 林浩康 福祉計画学科助教授 島津淳 第2グループ 福祉心理学科教授 清水信介 福祉計画学科専任講師 佐橋克彦 第3グループ 福祉臨床学科教授 横山穰 福祉心理学科教授 後藤恵美子 第4グループ 福祉計画学科教授 大内高雄 福祉計画学科助教授 K. U. ネンシュティール 第5グループ 福祉臨床学科助教授 高橋学 福祉計画学科助教授 中田知生

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
2005年 (38)		テーマ「社会福祉とジェンダー」 近年、「ジェンダー」に関する関心や様々な議論は、国連の動きから日常生活の諸分野に至るまで広がるようになってきた。にもかかわらず、必要な変化をすすめる医師があっても、ジェンダー問題に関する知識や日常生活の中の問題意識は相変わらず弱いところが多い。 社会福祉では、人種、年齢、性別等とは無関係に、人々はもっぱら「必要性」に応じて扱われていると思われているが、社会全体を規定するジェンダーの秩序は、やはり、福祉の諸分野をも規定している。そして、社会構造との関係が見えないと、ジェンダーによる問題が解決しにくい一方、現場の具体的な困難を知らないと理論的な知識も十分に役立たないので、夏季セミナーでは多様な視野から社会福祉の関連でジェンダー問題を明らかにし、解決方法を考えて行きたい。
	8月31日	9:45～10:00 開催の挨拶、オリエンテーション 10:00～11:30 基調講演①「ジェンダーと貧困」 金城学院大学教授 杉本喜代栄 12:30～14:00 基調講演②「DV・虐待の社会病理的理解と複合的援助」 メンズサポートルーム共同代表・日本家族再生センター所長 味沢道明 14:15～17:00 シンポジウム「社会福祉実践とジェンダーを考える」 コーディネーター 北星学園大学教授 U. ネンシュティール 助言者 杉本喜代栄・味沢道明 発題Ⅰ「夫婦コミュニケーション」 北海道文教大学非常勤講師 土倉玲子 発題Ⅱ「アディクションとジェンダー」 リカバリーハウスそれいゆ代表 大嶋栄子 発題Ⅲ「法律相談に見る社会福祉とジェンダー」 弁護士 浅松千寿 発題Ⅳ「男女共同参画社会の現状と将来」 北海道環境生活部男女共同参画社会推進室主幹 細野秀則 発題Ⅴ「アイヌ女性の複合差別」 札幌市アイヌ文化交流センター生活相談員 多原良子 17:00～17:30 質疑と討論
	9月1日	9:00～12:00 分科会 第1グループ「社会構造とジェンダー」 北星学園大学教授 杉岡直人 北星学園大学専任講師 木下武徳 第2・3グループ「DVの両当事者・夫婦コミュニケーション」 北星学園大学助教授 林浩康 北星学園大学専任講師 久能由弥 北星学園大学助教授 安部雅仁 北星学園大学助教授 田中耕一郎 第4グループ「アディクションとジェンダー」 北星学園大学教授 U. ネンシュティール 北星学園大学助教授 田澤安弘 第5・6グループ「法律相談とジェンダー差別・アイヌ女性の複合差別」 北星学園大学教授 横山穰 北星学園大学教授 池田雅子 北星学園大学教授 大内高雄 北星学園大学助教授 中川純

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
2006年 (39)		テーマ「社会福祉はどこにいるか・どこに行くか」 社会福祉はここ10年における大変動の流れの中で、果たしてこれからどこに行くのかという岐路に立たされている。国家財政危機、地方分権・三位一体改革、社会保障構造改革、社会福祉基礎構造改革、公益法人などの変動要因は、市民生活に大きな負担をかけ、社会福祉の責務を益々重いものとしている。このような時代において、今後社会福祉がどのような方向へ向かうのか・向かうべきかを明らかにする必要があるが、そのためには社会福祉が現在どのような現状にあるのかを解明しなければならない。 本セミナーはこのような意図のもとに、我が国社会福祉が「今、どこにいるのか」そして「今後どこへ行くのか」を、政策・実践・教育と言う三位一体的側面から明らかにし、課題を広く関係者と共有することを目指す。
	9月 7日	10:00～10:30 開催の挨拶、オリエンテーション 10:30～12:30 社会福祉学部開設10周年記念講演①「わが国社会福祉政策の現在と展望」 京都大学大学院教授 橋木俊詔 討論者/北星学園大学専任講師 木下武徳 13:30～15:20 社会福祉学部開設10周年記念講演②「わが国社会福祉実践の現状と諸課題」 北星学園大学教授 米本秀仁 討論者/特別養護老人ホーム厚別栄和荘施設長 瀬戸雅嗣 15:50～17:40 社会福祉学部開設10周年記念講演③「わが国社会福祉教育の現状と諸課題」 同志社大学教授 黒木保博 討論者/北星学園大学教授 横山穰 18:00～19:30 社会福祉学部開設10周年記念レセプション
	9月 8日	9:00～12:00 社会福祉学部開設10周年記念シンポジウム「わが国社会福祉の諸課題と今後の方向」 コーディネーター 北星学園大学教授 米本秀仁 北星学園大学助教授 中田知生 発題1「社会変動と低所得者問題」 法政大学教授 杉村宏 発題2「自立支援の概念の再検討」 北星学園大学助教授 田中耕一郎 発題3「家族と福祉の再検討」 甲南大学教授 野々山久也 討論者/北星学園大学社会福祉学部長 杉岡直人 13:00～15:00 分科会 第1グループ「マクロ福祉の現状と教育課題」 司会/北星学園大学福祉計画学科長・教授 U. ネンシュティール 報告1 社会福祉政策動向と教育課題 北星学園大学助教授 佐橋克彦 報告2 地域福祉の動向と教育課題 北星学園大学教授 大内高雄 第2グループ「ソーシャルワーク実践の現状と教育課題」 司会/北星学園大学福祉臨床学科長・教授 池田雅子 報告1 ソーシャルワーク実践の現状 北星学園大学助教授 中村和彦 報告2 ソーシャルワーク教育の諸課題 北星学園大学助教授 久能由弥 第3グループ「人の心と人の福祉及び教育課題」 司会/北星学園大学福祉心理学科長・教授 今田民雄 報告1 福祉心理学の成立 北星学園大学教授 豊村和真 報告2 臨床心理学の立場から 北星学園大学教授 清水信介

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
2007年 (40)		テーマ「北海道における格差社会と社会福祉」 2006年は政治的にも社会的にも「格差社会」が大きな議論となった。パート・派遣労働、消費者金融の借金、ネットカフェ難民、自治体の財政破たん、地方からの人口流出等、私たちの暮らしに関わる様々な問題が注目された。他方、大都市圏では、マンション建設ラッシュや株等投資家の金融資産増加、大企業の大幅収益の増加が指摘され、「格差社会」の兆候が見えてきている。 特に北海道では、景気自体余り回復していないと言われる。また、夕張市に象徴されるよう、財政難に陥っている自治体や、営業不振に陥っている中小企業が多く、生活保護の受給率は全国の中でも最上位にある。北海道の「格差社会」の実態はどうなっているのか。また、北海道に住む人々の暮らしを守るためには、どのように対応していけばいいのか。講演とパネルディスカッション、分科会を通して、参加者と共に北海道の明日について考えて行きたい。
	8月28日	10:00～10:15 開催の挨拶、オリエンテーション 10:15～11:45 基調講演Ⅰ「日本の格差社会と社会福祉」 財団法人 休暇村協会理事長 炭谷茂 12:45～14:15 基調講演Ⅱ「北海道の格差社会と社会福祉」 北海道大学大学院教育学研究院長・教授 青木紀 14:30～16:00 パネルディスカッション「北海道の格差社会と暮らしの行方」 コーディネーター/北星学園大学教授 米本秀仁 コメンテーター 炭谷茂・青木紀 討論者/北星学園大学教授 横山穰 発題1「北海道の地域格差」 北星学園大学教授 島津淳 発題2「北海道の景気と労働」 北星学園大学経済学部専任講師 川村雅則 発題3「北海道の医療問題」 勤医協札幌病院医療社会福祉課長 福原宏 発題4「北海道の家族支援～児童虐待の視点から」 北海道中央児童相談所所長 大場信一
	8月29日	9:30～12:00 分科会 第1グループ「地域経済と労働」 司会/北星学園大学准教授 安部雅仁 報告 社会福祉の動向と労働問題 北星学園大学准教授 木下武徳 第2グループ「高齢者の暮らし」 司会/北星学園大学教授 米本秀仁 報告 高齢者の生活と就労 北星学園大学准教授 中田知生 第3グループ「障害者の暮らし」 司会/北星学園大学准教授 中村和彦 報告 障害者の自立支援と生活 北星学園大学教授 田中耕一郎 第4グループ「子供の暮らし」 司会/北星学園大学教授 U. ネンシュティール 報告 子供を取り巻く家族と子供の権利 北星学園大学准教授 栗山隆

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
2008年 (41)		テーマ「貧困・低所得問題への支援～格差社会に何が必要か？」 社会福祉夏季セミナーでは、ここ2年続けて格差社会をキーワードに社会福祉政策の課題を中心に議論をしてきました。しかし、障害者自立支援法の成立、介護保険制度見直し、そして後期高齢者医療制度の実施等、社会福祉政策の課題を通じて、福祉・医療サービスを受ける際の保険料・利用者負担等が、低所得層からじわじわと一般化し、貧困・低所得問題が生活リスクとしてウェイトを高めてきています。 こうして、国民生活を取り巻く環境は一段と厳しいものとなり、その支援に関わるソーシャルワーカーにとっても、貧困・低所得問題は、高齢・児童・傷害等社会福祉のこれまでの領域を超えて広がり、これらの問題を克服するための具体的な支援のあり方が問われています。 そこで今回は、貧困・低所得問題の解決に向けて支援・運動の全国的な展開状況を学び、また貧困・低所得問題を解決するための新たな所得保障政策の戦略を知るための基調講演を設定しました。シンポジウムでは、北海道で貧困・低所得問題に果敢に取り組んでいる支援・実践の実態を明らかにし、今後の支援・実践の課題を検討していきます。
	8月28日	10:00～10:15 開催の挨拶、オリエンテーション 10:15～11:45 講演Ⅰ「貧困・低所得者への支援と反貧困運動の展開」 NPO法人自立生活サポートセンター・もやい事務局長 湯浅誠 12:45～14:15 講演Ⅱ「貧困・低所得へのベーシック・インカム戦略～これからの社会保障を考える」 京都府立大学教授 小沢修司 14:30～16:00 シンポジウム「貧困・低所得の問題と園支援～格差社会を克服するために」 コーディネーター/北星学園大学准教授 木下武徳 コメンテーター/京都府立大学教授 小沢修司 発題1「後期高齢者医療制度の費用負担と低所得者対策」 北海道社会保障推進協議会事務局長 甲斐基男 発題2「困難を抱えた子供・若者の自立の課題と貧困～はく奪され続ける子供たち」 子供自立支援グループ・CAN代用、児童養護施設保育士 長谷あゆみ 発題3「生活福祉資金の支援とその課題」 北海道社会福祉協議会 地域福祉部 生活支援課長 亀川義信 発題4「貧困の実態～多重債務と生活保護等への支援から見えてきたもの」 札幌司法書士会社会問題検討委員 安東朋美 16:20～17:00 ディスカッション+フロアからの質疑

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
2009年 (42)		テーマ「ソーシャルワーク実践の到達点と新たな可能性」 社会福祉を巡る制度の激変の中で、そこでの実践のあり方が問われている。社会福祉制度を含む社会の激変が、人々の生活不安、生活障害を大きくしている中で、社会福祉実践理論とされる「ソーシャルワーク実践」が、これまで以上にその役割を果たす事が期待されている。まさにソーシャルワーク実践を必要とする社会状況が一層強まっているのである。しかしながら、今日の社会福祉の実践環境が厳しいものとなっているのも事実である。他方で、伝統的な福祉六法領域での実践を超えて、新たな実践領域が生まれつつあり、そこでの実践は、これまでのソーシャルワーク実践の刷新を要求している。この社会的要請に対して、これまでのソーシャルワークが歴史的にどのような経緯と到達点を持っているのか、新たな可能性・理論的展望とは何か、これらを探ることを本年度の社会福祉夏季セミナーのテーマとしたい。
	8月29日	10:00～10:15 開催の挨拶、オリエンテーション 10:15～11:45 講演Ⅰ「ソーシャルワークの存在理由－なぜソーシャルワークでなければならないのか－」同志社大学社会学部教授 木原活信 12:45～14:15 講演Ⅱ「ソーシャルワークにおけるミクロ・マクロのリンク-ソーシャルワークのものの見方を考える-」北星学園大学教授 米本秀仁 14:30～16:00 シンポジウム「ソーシャルワーク実践の最先端とその課題」 司会/北星学園大学教授 中村和彦 シンポジスト/ (精神・医療ソーシャルワーク領域) 北仁会旭山病院医療相談室ソーシャルワーカー 高橋陽介 (地域包括支援センター) 札幌市白石区第1地域包括支援センター社会福祉士 富永英香 (スクールソーシャルワーク領域) 北星学園大学准教授 久能由弥 (施設ソーシャルワーク領域) 特別養護老人ホームバルシア統括主任 芳賀恭司 コメンテーター 同志社大学社会学部教授 木原活信 北星学園大学教授 米本秀仁
	8月30日	9:30～12:00 分科会 第1グループ「学校におけるソーシャルワーク」 司会/北星学園大学准教授 久能由弥 発題者/札幌市立中の島小学校教頭 広瀬英生 第2グループ「医療におけるソーシャルワーク」 司会/北星学園大学教授 中村和彦 発題者/医療法人社団北樹会病院医療ソーシャルワーカー科長 巻康弘 第3グループ「自立支援とソーシャルワーク」 司会/北星学園大学教授 田中耕一郎 北星学園大学准教授 中川純 発題者/静内桜風園静内ペテカリ背活支援センター 村田修 第4グループ「施設におけるソーシャルワーク」 司会/北星学園大学教授 米本秀仁 発題者/愛灯学園施設課長 阿部宏彦 第5グループ「女性問題とソーシャルワーク」 司会/北星学園大学教授 池田雅子 北星学園大学教授 U. ネンシュティール 発題者/NPO法人リカバリー・地域活動支援センターそれいゆ代表 大嶋栄子 第6グループ「児童問題とソーシャルワーク」 司会/北星学園大学教授 栗山隆 北星学園大学准教授 岡田直人 発題者/北海道保健福祉部こども未来推進局自立支援グループ主査 黒滝仁司

社会福祉夏季セミナー開催状況

開催年度 (回数)	開催日	テーマ・プログラム
2010年 (43)		テーマ「現代の我が国における生活保障のあり方とその課題」 今、日本社会はどのような状況を呈しているであろうか。財政は慢性的に赤字となっており、国の借金は900兆円を超えていると言われている。 この中でとりわけ、医療、年金、介護と言った社会保障にかかる費用は膨張を続け、社会保障制度そのものの持続可能性が問われている。 一方、そのような普遍的ニーズに対応するような制度とは別に、社会全体に目を向けてみると、先進国中トップクラスの社会的不平等の拡大、「リストラ」に伴う正規社員の削減と、その代替策としてのフリーター等の非正規雇用者の増加、ホームレスの増加と排除と言った現象、さらには、生きる事そのものをやめてしまうという自殺者の増加等が見られる。 このような状況は、我々国民の生活基盤そのものが危機にさらされている状況であると言え、従来の社会保障制度が前提としてきた日本社会そのものの変容を意味している。 そこで、今年度の北星学園大学社会福祉夏季セミナーでは、日本社会の変容を踏まえたうえで、社会保障・社会福祉及び雇用政策までを視野に入れた「生活保障」を軸に、今、我々が置かれている状況を整理し、その課題の抽出を試みることにしたい。
	9月3日	9:50～10:00 開催の挨拶、オリエンテーション 10:00～11:15 基調講演「社会福祉の生活保障機能を考える」 北海道大学大学院教授 宮本太郎 11:15～11:45 質疑応答 司会/杉岡直人 13:00～15:20 パネルディスカッション 「生活保障から見る実践現場の課題」 司会/佐橋克彦・伊藤新一郎 1)「就労・雇用の観点から見る生活保障」 就業・生活応援プラザとねっとセンター長 重泉敏聖 2)「医療サービスの観点から見る生活保障」 札幌麻生脳神経外科病院医療生活相談室長 星野由利子 3)「介護サービスの観点から見る生活保障」 特別養護老人ホーム青葉のまち相談支援課長 芦崎祐公 15:35～16:15 コメント+総括討論 コメンテーター/北海道大学大学院教授 宮本太郎 岩手県立大学社会福祉学部准教授 都築光一 17:00～18:30 交流会